

特240
661



* 0047928000 *

0047928-000

特240-661

芸能科家事・裁縫の実際

和歌山県師範学校附属国民学校・編

和歌山県教育会

昭和16

AHH

特240

661

歌山縣師範學校附屬國民學校編

國民學校教科經營實際問題の研究 第十三輯

藝能科家事・裁縫の實際

はじめに

家事裁縫は昔ながら女子獨特の教科で女子としての技能と魂を養ふ任務を持った教科である。さて此の度國民學校の家事裁縫に對して如何なる點を要望せられてゐるか。ところで過去の家事裁縫の目的を反省致すの時、技能とか技術方面の習得が主眼とされた傾向が強く見受けられ唯上手に或物を仕上げたらよい、それ以外に求められてゐる所の根本理念がどうしても明瞭でなかつた。國民學校の家事裁縫は果して従前の通りの爲し來りてよいのであらうか。勿論針持つ事、縫針のその仕事には變りはないがその根本精神、これが大いに明らかにせられたのである。

「皇國の道に則りて普通教育を施し國民の基礎的練成を爲すを以て本旨とす」、これはどの教科も同様國民學校の一貫した教育の精神で尙、藝能科家事裁縫に於いてはその持場に於いてそれ／＼の目的がある。それでは技能、技術はどうでもよいのか、否それ所ではない、家事裁縫の學習を通し、技、一体の境地へ導くそこである。従つて學習に當つては「眞摯なる態度」「姿勢に留意」「綵を重んじ」等々形式面から内容面に及ぼすその力即ち總べてを行すの學習態度それだけなければならぬ。好きだ嫌ひだ、さうした手ぬるい事ではない、日本女性なるが故に是非學ばねばならない。「細工は細々仕上げをこらん」出來榮えのみを言々するものでもない、學習時に於ける精神訓練は修身の時間だから留意するだけではない。國民學校のどの教科も同じである。従つて家事裁縫にたづさはるものよく／＼根本精神を体し家事裁縫の目的を咀嚼し確固たる信念のもとに實際指導に臨まねば昔も今も同じく一段の變りも進歩もない事になる。その意味に於いて以下その目的を解し自分の思ふが儘に當てはめて記述致したに過ぎない。尙兩科の系統を立案致したものと、今尙實施致しつゝある道すがらなので勿論完備には達してゐない、どうか御研究の深い皆様方の御親切なる御鞭撻と御指導を仰ぐ次第である。

はじめに



藝能科家事の實際

目次

一、藝能科家事の目的	
1、家庭生活に於ける任務を知らしめ	一
2、實務を習得せしめ	二
3、婦徳の涵養に資すべし	三
二、藝能科家事の教材について	
1、祭事取扱ひの目標	三
2、保健指導の目標	四
三、藝能科家事の方針並に取扱上の注意	
1、國に報ずるの精神を涵養すること	六
2、國民科との關聯について	七
3、理數科との關聯について	八
4、模の指導	九
四、吾校に於ける藝能科家事指導系統案	
1、藝能科家事教材配當方針	一〇
2、藝能科家事教材配當表	一一
3、藝能科家事教材配當表	一二
高等科一學年	一二
高等科二學年	一三

藝能科家事の實際

一、藝能科家事の目的

「藝能科家事は我が國家庭生活に於ける女子の任務を知らしめ實務を習得せしめ婦徳の涵養に資すべし」
 1、家庭生活に於ける任務を知らしめ

今更言ふ迄もなく世界に譽れる家族制度の尊い國体である。即ち三千年來過ぎ來しこの方善きを取り惡しきを捨て、先祖代々その美風を受け継ぎ日事に任へ家のため家族のために盡し參つたのは日本女性の尊い姿である。古來から家事萬端一身に引き受けその身を献げて家を齊へ賢實な家族制度の杖、柱となつて今日只今に及んで居るのである。此の歴史的な美風、その魂を繼承し更に興亞の日本、八紘を宇となすその源たる家庭たらしめねばならん、言ふ迄もなく一つ／＼の家庭の目ざす目標は皇國の道に則る所の健全なる一つ／＼の家庭で、その中で家族の全責任を司つて立働いて居るのは母であり婦人である。

今も昔も母にも婦人にも變りないが今後の皇國日本の母、婦人は一段の認識を新たに努力と向上を深めねばならん、その基礎の修練場たる藝能科家事重且大なる使命がある。

2、實務を習得せしめ

過去の生活を省みる時女子が家事の實務をなす事は餘り好まず女中まかせ、仕立屋まかせで用をなさずして奥様ぶりを

發揮する事が最善と解せられ今の時にも未だ有閑マダムとかの名が去られない。(但し家業の職務上止むを得ぬ)婦人の仕事、母の仕事昔も今も變りない筈であるが果してそれでよいのであろうか。國民學校家事の目的は國民の一人一人が仕事、善し悪しを言はずその分に應じ家に盡くす事が皇運を扶翼し奉る有爲なる女性たるの素地へと育成せんとするのである。即ち

△實習を通し——勤勞實踐の性格を陶冶し
△心技一体の修練によつて實際に間に合ふ腕の人へ

その過程に於いて磨かれた、知識、技能が現在に置いて將來の生活に於いて科學的に合理的に無駄なく家事萬端を處理し應用實踐し得られるその基礎の力を修練するのである。かくして求める家庭は即ち健全なる家庭でなければならぬ、健全なる家庭の力は精神的にも身体的にも底力となつて發現せられるのである。且その底力は一家の盛衰は勿論のこと延いては國家に連るのである。

可愛ゆい兒童の日々便所掃除の眞じめさも割烹實習の嬉々として立働くその姿もそれは御國に盡す道への歩みである。その尊い自覺をもたせたい。

3、婦得の涵養に資すべし

家事のすべてを實踐してゐるその姿が即ち婦徳の涵養それである。日本婦人の婦徳とは自分を忘れ家のために盡し、年寄りをいたはり、夫につかへ貞淑であり、子供の養育の辛苦艱難は何のその眞に全我を献けた心境これが世界に類なき皇國日本女性としての良妻であり賢母に外ないのである。我が國の女子教育の目標はとりもなほさず皇國日本の良妻賢母への育成であり練成である、俗に言ふ「椽の下力持ち」で女子の仕事、臺所の仕事は目にたゞない、しかし一椀の味噌汁、一椀の飯そこから無限の力、尊い底力となつて世に出るのである。

割烹實習で一生懸命に菓子作りに餘念のないその姿、うまく上手にと努力してゐるその態度、出来上つた菓子、型のこわれない、美しいのは先づ先生に、お土産として父母に、型の破れた物は自分に、これが尊い姿でなくて何でありませ

う。形の大きい善いものは誰れでもが求めやうとする所人情の常でありませう、かくした小さい事ながら日々の躰が元である、これが精神的の躰であると思へる婦徳の芽生へも先づ小さい事ながらも一つ一つの行からであると思へる。

二、藝能科家事の教材について

「祭事、敬老、育兒、食物、住居、保健、看護、家計等につき家庭生活上日常必須の事項を授くること」

従前の家事教材と異なるところは「祭事」「保健」が新たに加へられ、衣服に關する事項は裁縫にて取扱ふこととなつたのである。尙授業時間は一週二時間(従來は一時間でもよかつた)となつた。

1、祭事取扱ひの目標

何れ教科書が發行されますれば明らかになるのですが承るところに依れば家事として取扱ふその眼點は「家庭内での祭事取扱」との事である。

即ち家庭に於ける神の祭り方、先祖の祭り方、その指導に外ならないと思ふ。その根本精神は即ち神を崇ひ、先祖を祭り、今日我がある事を謝するとともに將來を誓ふ事である。

敬神崇祖を根本として家族制度に特殊の意義を有する我國に於いて特に重んずべきでその精神を明らかにし實踐を指導し敬神崇祖の念を培ひ、君恩、祖先の恩を謝し以つて國に報するの信念を鞏くするのである。

兒童の家庭に神、佛の有無を調査し特に神棚無きものには兒童を通じ祭る事の大切さを指導する(勿論皇大神宮なることを)

佛壇の無き家は分家の家庭が相當に多い(宗教に依つて無きものは兒童を通じ親に悟らしめる)それ等は孟蘭盆會、彼岸詣には祖先の家(本家)を訪つれ墓参に行くの意義を明らかにし同時に親類圓滿の鍵は婦人の務めの一つであることを知ら

せる。初等科二年ヨイコドモ下第七課には幼児なれども親類圓滿の部面が書き出されてゐる。

2、保健指導の目標

健康増進の目標面には、体育法、栄養法、育児法等の部面がある。家事に於いてはこの栄養育児の方面を擔當すべきである。

我が國の壯丁の体位が漸次下向の傾向にあること、乳幼児死亡率の多い等に鑑み一家全体の保健に注意するは家庭婦人の重任なる事を知らしめ中でも食物の要件と其の教授過程の指導に留意を要す、在來の習慣食の缺陷は之を調理するものも食べる者も身体の栄養に就いて意識するところが乏しかった。食物に於ける營養的要素を輕視することは重大なる缺陷であるが故に今日以後の食物教授に於いては經濟、美味、外見等の工夫と共に營養的要素を強調しなければならん、食物改造の要點は栄養の一點に歸すと言つても過言ではないと思ふ。特に現時局に於いては最小の材料によつて最大なる營養價を持たしめねばならん、この知識これが最も重要部面である。故に割烹實習に於いては日常家庭の食品の調理と隔りのない教材で且つより以上合理的なる學習でなければならん、即ち實際に間に合ふべく一碗の飯も味噌汁も其の健康を確保するに足る食物指導であることを肝要とする。故に家事實習は學校のみに於いてのものでなく學習を通じ家庭への實踐指導を望まねばならん。

兒童作文に表はれた一例

す い と ん

高二 江川 久子

今日は、朝から雨が降つて嫌な気がする。

夏の友をやりかけて時計を見る。もう八時である。今日は買物に行かないのかなと思つて、傍で足袋のつぎをしてゐた祖母に尋ねると「そうだねえ、こんなに雨が降ると。」と窓から外を見る。

昨夜から降り続いた雨は、細家の道を濁流となつて流れてゐる。

「どんなおかげにするの」と尋ねると、「家事で習つた中でやつてごらん」と言はれた。

祖母がして下さる時は、あんなにすればよいのに、こんなのがよいのにと思ふけれど、さて、自分でやつて見ると、どうしようかと迷ふ。

すいとんがよかろうと思ひたち、お鍋を七輪にかけて、適量の水と午考のささがきを入れた、お水が沸騰して來たので肉を小さく切つて入れた。

裏の方でクロの鳴聲がする。走つて行つて見ると、干ぐひにひもを巻きつけて鳴いてゐた。

臺所でしゆつと言ふ音、すばやく解いて行くと、すいとんの煮しがこぼれてゐる。

ふたを取つて解いたお味噌を入れて、うちわで下をあふぐ。灰がばつと散つたのであわて、ふたをする。灰がしづまつてから、うどん粉のおだんごを入れ、一二分してから、葱を入れて、沸騰してから少したつて下した。

「早く膳を出しなさい」と祖父が言つてゐる。お膳を出してから、臺所でそつとお鍋のふたを取つた。

白い熱いゆげがさつと顔をなせる。おいしい臭が鼻を打つ。

お膳を出すと祖母の給仕で皆に配ばれる。いつも文句を言ふ祖父がおいしさうに「久子の出來にしてはおいしい。」と言つてほめてくれた。

「でも少しお味噌を入れすぎて、だんごのでんがくみだよ」と兄さんが言ふ。皆が笑つた。

私は祖父にほめてもらつて、きまりが悪いと思つてゐる所へあんな事を言はれると、よけいきまりが悪くなつた。祖母は「でもおいしいよ、女中代りになつてもらふよ、お鍋どんよ、お茶取りなさい」と言つて笑つた。

學校ではお肉の代りにお揚げを入れた。でも先生が「油揚げの代りに肉を入れてもおいしいですよ。」と言はれた事を思ひ出し、やつて見たが、こんなにおいしくなるとは思はなかつた。おかげで皆がおいしい〜と言つてくれるので、作りがひがあると思つた。外はすつかり雨がやんで水たまりの水が日にカ〜やいてきら〜と光つてゐる。クロも御飯がほしいのか「ワンワン」ほえててゐる。

三、藝能科家事の方針並に取扱上の注意

1、國に報ずるの精神を涵養すること

裁縫と同じく單に技術を指導するのではない、實習、實踐を通して國に報ずるの心構へを涵養することである。割烹實習に於いて榮養的に指導を受けた節米調理、日曜日には母上の手傳ひとしての献立となり、父母、兄弟へのよろこびうるほひなごやかさは勿論よいのであるが、單に家族の健康に又一家の團圓のみの目標のものではなく國家への御奉公を十二分に果し得る健康増進であるべき必要さを自覺せしめねばならん。

特に時局柄物品の不足してゐる時一身一家が事足りるで満足して居る時ではない、節米すること、代用食を研究すること、隣組に於いて女子ながらも空閒地を利用して一株の野菜をでも多く作る事が現在國策に順應する一側面であり臣道實踐の歩みである。それと同時に物に對して感恩報謝の心を常に事に當り物に對して献げなければならん。

二宮尊徳先生の報徳の教の所に

「世人の常情、明日食ふ可き物なき時は他に借に行かんとか救ひを乞はんとする心あれど、彌明日は食ふべき物なしと云時は、釜も膳も椀も洗ふ心なしと云へり。人情實に然るべく尤の事なれども此の心は困窮其身を離れざるの根元な

り。如何となれば日々釜を洗ひ膳椀を洗ふは、明日食はんが爲にして、昨日迄用ひし恩の爲めに洗ふにあらず、是心得違ひなり。たとひ明日食ふ可き物なしとも、釜を洗ひ膳も椀も洗ひ上げて餓死すべし、是今日迄用ひ來りて命を繋きたる恩あればなり、是恩を思ふの道なり此心ある者は天意に叶ふ云云」 以上

尙時局下に於いては戰の勞苦を忍び粗食にも困苦缺乏の生活に堪える精神力をも養ふ事が必要である。

2、國民科との關聯について

「國民科との關聯に注意し禮法を重んじ我が國家生活に於ける醇風美俗の維持發揚に力めしむべし」

國民科と連關——特に家庭は安息所、慰安所であるとともに人間の踏むべき道を實地に行ふ修養鍛錬道場であることを知らねばならん。二宮尊徳先生の言葉に「道ハ書籍ニアラス實行ニアルコト」と申されてゐる。

日常生活内での禮法を従と横に分類すれば横とは社會生活に對しての禮法であり従とは家族内での禮法と申される、一般的には社會生活上の禮法は重んぜられ輕卒な振舞は無禮とされて居りますが、従の禮法即ち家族内での禮法は餘りにも親しくてうとんぜられてゐる。

祭事即ち祖先の祭りも従の尊い儀禮の一つである。

割烹實習に於いても出來上つたものはすぐ自分達で試食すればよいのではない。先づ立派に炊けた御飯の御初は神様にお供へし先生に御試食をお願いする。その盛りつけの仕方、御給仕の作法等うちとけた仲にも眞心こめての實踐でなければなりません、母上の御傳ひのお役に立つ日曜日、同じく御初は神様から佛様、御給仕はお年寄りから父母……妹に最後は自分「いただきます」かうしたやさしい少女心……敬神崇祖の念、敬老の必要も理屈からのものでなく歩もとからの行ひである。これは今はじめられたものでもなく我國固有の家族制度の美風である。その維持發揚に力めるのは家庭内に於ける日々の禮法であり實踐でなければならん。

新らしく祭事の加へられたのも出發はこゝからかと思はれる。眼前の生祖先への奉養も怠りがちで佛壇のみへ花を載し線香をかざしても感謝報恩の念を厚くするとは言へぬ。嫁姑の關係も即ち従の禮法こゝからである。

御 製

なよ竹はすなほならなんうつせみの

世にぬけいでむ力ありとも

將來、より以上の家族制度をうち立てん興亞日本の女性は口先、眼先、手先では駄目、より以上の底力、根氣強き精神力をうち込まねばならんと思はれる。

3、理数科との關聯について

「理数科との關聯に注意し家事を科學的に處理するの態度を養ひ家庭生活の充實改善につきて指導すべし」
科學化、合理化と言へば自分の家では又このまゝの家の構造では出来ないなどの態度で居る場合が多い、コンロの使ひ方鍋のかけ方、炭一つのつぎ方にでも科學的な合理的な使用が出来ない。今直ちに臺所を建かへる事が生活の充實でも改善でもない、炭のつぎ方、薪木一本の炊き方に於いてもそれら合理的經濟的の使用法が編みだされる。湯一つ沸かす事にも夏冬水の温度の違いは何度と正確な数を知らなくても済み立と済み置き位何れが早く沸く位知らねばならん、さうした小さい事のうちに、時間及燃料の經濟的消費がある筈、同じ事を日々時々繰り返して居るその事にすら餘りにも無關心の場合が多い、故に同じ失敗を何回繰り返かへしてもその原因を究めず結果のみを言々する。初學習の兒童には特に足もとから基礎づけ將來科學的に處理するの態度を養ふこと。

しかし思ふに、明治の臺所、大正の臺所、昭和の臺所そこには進歩發展がなければならぬ筈の臺所醇風美俗の維持が舊來の傳統を餘りに朴守して居るのか一家の主婦は一日中買物と臺所で汗を流してかけ廻りしてゐるのでは今も昔も少しも進歩(時間的に)らしい所は見えない、一度家庭婦人になれば讀書する暇もない様では科學化も合理化も聲ばかりであ

る。即ち家庭に於ける日常生活は只舊來の習慣に随つてのみ進むのでは生活の改善向上が望まれない。科學や經驗で明にせられた理法に照して改むべきは改め採るべきは探つて合理的な生活をすべきである。言ひ代へれば合理的な簡素生活を望む。その結果として家族の健康が増し支出が減じ収入が増して時間にもゆとりが生じ住みよく樂しきものとなり一家團樂が期せられるのである。

4、躰の指導

「躰を重んじ勤勞の習慣を養ひ節約利用、清潔整頓につきて訓練すべし。」

勤勞の習慣も節約利用、清潔整頓も根本はみんな躰からのものである。故に初學習の兒童なるが故に最初からの躰が肝要である。用具の使用法、物の置場所、學校割烹時の場合組、庖丁、殘物入等に至るまで所定の場所を指定してよき習慣のつく所迄丁寧に指導してやる事、割烹實習は数人一組としての團體である、一人が物の位置を替へると仕事中尋ね廻さねばならない、仕事中の庖丁の使用後は組の上に置けば仕事への途中他の人が尋ねない様にとか、コンロに鍋をかければすぐに箸、ふきん、はその傍に置いて置くとか、調味品の使ひ方等一つ一つに就いて先づ最初に指導者が實際範をしめて約束をする。基礎の訓練が十分積む事が出来たら伸々と自由に活動をさせる。失敗もあらう、何時も失敗なく上手に出来るといふだけではない。仕事中悪い癖のつかないやう、よい習慣をもつ様に最初から最後まで最後迄力めなければならん。特に實習後の整理、整頓には最初のうちは指導者とともに後かたづけの中間入りをし完了を期し、必ず用具はもとの場所へ直す習慣を正しくつける、とかく實習はよるこんで爲すが後かたづけは面倒なものである。家庭の臺所も同じく誰がいづ物を取りに行つても同じ所に整頓されてゐる様指導する。

次に實習材料の完全に消費する習慣をつけることである。例へば

人蔘を用ひる献立に於いて葉の入用がないから捨てるのではなく、それをさつと(よい所をとつて)ゆで、色の配合に用ひると言ふ様に人蔘に葉があれば葉とともの人蔘である、入用な所だけ使つて後は用なしで捨てると言ふ態度は特に最初の訓

練に注意せねばならん、たくさんあるから捨ててもよいのではない、今の場合人蔭の葉には榮養上からも勿論よいのであるが、物に對して敬虔な心を養ふ、勿体ないと言ふ態度が常にあれば、何事でも無駄な生活と言ふ事がない。女子は常に骨惜しみなく、まめくしく立ち働く、更に頭も働かせ將來皇國の女子として恥ぢざる鍊成をつづけなければならん。

四、吾校に於ける藝能科家事指導系統案

1、藝能科家事教材配當方針

- イ、國民學校教育の本旨に準據して現行家事教科書第一學年と第二學年の教材に祭事、保健の事項を加へ衣服に關する事項は裁縫で取扱ふ事とし家事教材中より省く
- ロ、現行家事教科書第三學年の教材中より祭事、育兒、食物、住居、衛生、看護に關聯せる教材を採り、第一學年、第二學年に加へ配當した。
- ハ、教材の種類によつては季節の關係等の爲め連關して同學年に課することが困難故適宜分けて配當することにした。
- ニ、藝能科家事及び裁縫の教授時數五時間に増課一時間を加へ毎週六時間とし家事二時間、裁縫四時間として配當した。
- ホ、尙以上の方針のもとに立案せしも時局柄材料及び其他の都合に依り教育的考慮のもとに教材を適宜變更することもある。

2、藝能科家事教材配當表

高一

一學期	時間	二學期	時間	三學期	時間
女子と家事	2	食物の成分	5	すゐとん	2
掃除	2	料理法の概説	4	煮	2
住宅	4	料理用具	4	鶏卵の料理	4
祭事災害に對する心得	3	食器とふきん	2	汁	2
臺建具の手入	2	寒天菓子	2	煮込うどん	2
什器履物の手入	2	味噌汁	2	煮	2
電燈	1	澄汁	2	蒸パン	2
燃料	2	米と代用食	2	煮魚	2
保健法の概説	3	飯の炊き方	2	煮魚	2
傳染病	2	其ノ一	2	燻魚	2
井戸と水道	2	其ノ二	2	燻魚	2
		其ノ三	2	燻魚	2
		煮	2	燻魚	2
		煮	2	燻魚	2

藝能科家事教材配當表

献立について	3	精選料理	2	肉の調理	4
献立と其料理	5	お萩キャベツのきざみ漬け	2		
端午の節句料理	2	みなり寿司	2	揚物	2
卵豆腐の浸汁	2	巻寿司	2	ライスカレー	2
茄子のしぎ焼	2	ちらし寿司	2		
炒飯と白菜の塩煮	2	栗飯きのこと豆腐葛かけ汁	2	茶碗蒸	2
野菜サラダ	2	哺乳乳	2	敬老	2
みつ豆	2	乳児の衛生	2	一家の経済	4
病人の看護	2	離乳	2	家庭生活の合理化	2
病人の手當	2	小児の病氣	2	献立の立案と實習	2
應急手當	2	障庇漬	2		
病人の食物	2	正月料理	2		

3、藝能科家事教材配當表
高等科一學年

題目	時間	練成要項	備考
女子と家事	二	1、家庭生活の意義 2、家庭生活に於ける女子の任務 3、一家の幸福繁榮は國家の隆昌 4、皇國女子たるの信念	△修身卷一 第四課家、第二十四課女子の本分と連絡を取り我が國体に於ける家族制度の醇風美俗を會得させる △家事の務の重要にして女子の使命なることの自信と自覺を養ふ △科學的合理的生活を營む △實踐を通し國に報ずるの精神を養ふ
掃除	二	1、掃除の必要と其の手段 準備 掃き 拭き 中掃 大掃 便所 掃除 2、神棚、佛壇掃除	△住宅の掃除の必要は衛生上の安全を圖る事が第一にして家屋、家具、什器の保存に有利ならしめると共に清潔整頓の良習慣を養ふ △女子は骨惜しみせず勤勞を尊しとする精神を養ふ △清潔にすること △衛生的なること △仕事の能率を考へること △掃除の後片づけに注意 △住宅の學習に際してはたゞ理想的の住宅を説いても實際的でない、兒童各自の住所の得失を考へさせ其の積極的の用にまで進ませたい △特に台所の清潔整頓に留意し誰れが行つても又暗夜手探りでも知られる様整頓法をとらしめる △住所改善に關する注意として和洋折衷式になつてゐる子供部屋、應接間等漸次改められてゐることも知らせる
住宅	四	1、外觀よりは健康増進の目的を達するに適した住みよい家の研究 △衛生的で災厄に安全で便利な家 △台所と便所の衛生的考察 △庭園の價值	△住宅の學習に際してはたゞ理想的の住宅を説いても實際的でない、兒童各自の住所の得失を考へさせ其の積極的の用にまで進ませたい △特に台所の清潔整頓に留意し誰れが行つても又暗夜手探りでも知られる様整頓法をとらしめる △住所改善に關する注意として和洋折衷式になつてゐる子供部屋、應接間等漸次改められてゐることも知らせる

電燈	災害に對する心得	祭事
二	三	二
1、電燈に関する知識と使用法 2、電力節約 3、防空訓練時の心得	1、災害の豫防及び之に處する心得 火災、水害、震災、暴風 2、防空施設と空襲時の心得	1、祖先の祭事について 2、家系、家實、家財について 3、日常生活又特殊の場合に於ける祭事について 4、禮法指導として玉串の捧げ方、焼香の仕方指導する
△電燈についての常識と照明についての知識を與へると同時に屢々起り易い漏電、感電等に関する注意を與へる △電燈は市中及田舎も大体行き互つてゐるが實際的な知識にともし △實物及び圖を用ひて用ひ方を知らせると同時に電氣の危険性を知らせ且つ安全な手入の仕方まで指導したい	高等三年家事教科書参照 △盜難の場合の事も附言として注意をしてもよい △隣組と關連して合理的な方法を指導する	△國家の祭事の指導(祝日、大祭日に於ける臣民の心得)は國民科修身に於いて各學年の指導されてゐる家事に於いての祭事は吾家を中心としての祭事の指導である △修身(家)と關聯し家族制度の繼承者は母であり婦女であり私である責任を知らす △家系圖、家紋等兒童に書かして置く(神棚佛壇の有無も調査) △宗派にござはつた作法ではない一般の儀禮法を指導する

井戸と水道	建具の入手	保健法の概説	傳染病
二	二	三	二
1、水道の長所短所 2、井戸に對する必然的な衛生的條件 位 置 構 造 淨水法 3、人生と水	1、疊、建具の特質及改善條件 2、疊、建具の手入法	1、健康は人世の至寶 2、健康を得る爲めの必要事項 3、一家全員の衛生保健は主婦の務	1、傳染病の経路について 2、傳染病の豫防法について
△水道の使用價格(最低使用料)を知るとともに水道の經濟的使用法 △井戸の衛生的使用法 特に相合井戸について △不良水の改良法	△疊の手入は作法室を實習に當てる △障子の切張りの要点 △障子襖の建方は二枚建は室内から向つて左方を外、四枚建は室内から向つて左右兩端を外、中間二枚は中央	△高三 第十一課参照 △食物、運動、休養、日光、空氣、清潔、病氣豫防 △附帶して處女衛生の指導	高三教科書 第十課参照 △病氣見舞に關する相互の注意指導 △患者を出した家内の者の處置及態度

燃料	什器 の 手 入
二	二
<p>1、家庭用各種燃料の長所と短所</p> <p>2、燃料の選擇及び取扱上の注意</p> <p>薪、木炭、石炭、煉炭、石炭ガス、石油、電熱等</p> <p>3、器具の選擇 燃料の經濟</p>	<p>1、普通家庭にある什器について材料の上から用途の上から合理的な手入、保存法</p> <p>2、雨具、履物(下駄・靴)の手入保存</p>
<p>△各種燃料の時價、火力時間等の比較表を作り如何なる燃料が經濟なるべきかを覺らせる</p> <p>△燃料の研究は家事經濟に及ぼすこと大にして最も重要なことを思はせ合所は國家に響くの觀念をもたらす</p> <p>△火鉢、ストーブの取扱もす</p>	<p>△すべての用具は手入保存によつてその壽命の長持ちする事を知らせる</p> <p>△器具手入れの材料は學校内のあらゆるものを使用して活用して實習させる</p> <p>△雨具、靴は學校の指導後自分の物は勿論、家内中の物まで處理するの態度にあらしめる</p>

第二學期

題目	食物 の 成 分	料理法 の 概 説	料理 具
時間	五	四	四
備	<p>1、食物攝取の目的</p> <p>2、食物の成分と食物の体内に於ける働き</p> <p>炭水化物、脂肪、蛋白質、水、灰分、各種ビタミン</p> <p>3、食物攝取の心得</p> <p>4、植物性食品 營養價值</p> <p>5、動物性食品 營養價值</p>	<p>1、主要な加熱料理</p> <p>物を煮る事</p> <p>物を焼く事</p> <p>物を蒸す事</p> <p>物を揚げる事</p> <p>飯を炊くこと</p> <p>2、加熱しない料理法</p>	<p>1、一般家庭にて使用してゐる料理用具の特色、用法、使用上の注意について授ける</p> <p>鍋釜類、庖丁、俎、計器、加熱器等</p> <p>2、料理用具の衛生的考察</p>
考	<p>△偏食の矯正(如何なる理由かを研究せしめ自ら改めさせ)</p> <p>△保健法の概説にも述べるが自分は國家の重要一人なる事を更に自覺を深くし食養生を第一とする事</p> <p>△學校給食献立の檢討</p> <p>△時給給食選擇の必要</p> <p>△輸出、輸入食品の使用節減</p> <p>△食品の經濟的使用及び貯藏</p> <p>△各自の生活を基調として取扱ふ</p> <p>(實際献立の調査)</p> <p>△日常食品營養價表示活用</p>	<p>△高等科三、第一課参照</p> <p>△前課と連關して實際食品として食膳に製せられる迄の過程を知る</p> <p>△理論より實際の指導を望むが初學習見なるが故に概説として實習の基礎知識を知らしめる</p> <p>△如何なる料理法が合理的か</p> <p>營養的 衛生的 考察</p>	<p>△物の壽命は使用、保存上の注意如何によること</p> <p>△土鍋、アルミニウム等實際に湯を沸騰させ炭、時間其他經濟的考察をする(一〇〇度の過程)</p> <p>△コンロに火のおこす實習とかね前項を實習せしめる</p>

食器 と ふきん	寒天 菓子 の 作り方	味噌汁
二	二	二
1、食器の種類と取扱方、蔵ひ方洗方 食器の消毒 保存法 2、ふきんの使用法 洗ひ方(分類) 消毒	1、寒天の栄養と作り方 水 計器を使用し 砂糖)その分量を目測 2、使用用具の取扱 3、切り方 4、盛り方	1、味噌の栄養と味噌汁の作り方 煮出汁の取方 味噌の量 水の量 火加減 2、中味の調理 豆腐 菜羹 葱 3、盛り方 4、試食
△各自の家庭の食器に對する取扱の様子を研究調査させておく △各自の調査事項を資料として食器の取扱ひに就いて衛生的合理的考察 △消毒室利用 △清潔といへば肉眼に映ずる範囲内に於いての取扱ひに過ぎない △細菌等の傳染性の恐ろしき事など食器の衛生を通して理解させる	△最初の訓練が大切 身仕度 用具の準備 仕事の手順 作業ぶり △最初なるが故に簡単な又家庭にて経験のあるものを選んだ(失敗のうれいなきもの) △特に仕上げのみにとどまる事なく後片づけに注意(この初取扱ひの態度がいつまでも影響する) △記録せしめる	△一人分何程の分量か實際に量的に指導し不用量を作らさない △煮出の材料は小鍋の干したもの(よく乾燥せしめ粉とす) △味噌を入れると長時間沸騰させぬこと △葱も同様 △食品、調味品、燃料の經濟的使用は割烹時中平常の注意するを要す

澄汁	米 と 代用食	飯の 炊き方 其ノ一
二	二	二
1、澄汁の特徴 2、汁の實の調理 かまぼこ 三つ葉 3、盛りつけ 4、試食	1、代用食の必要について 2、玄米の構造と成分 3、米の精白と栄養價值 4、栄養より見た節米食の方法	1、うどん飯の炊き方 混合の割合 水加減 火加減
△澄汁は醤油のみにて作る家庭が相當に多い筈、醤油にての味つけを知らず △調節を使用してもよいが兒童發育上煮干粉を用ふ △味噌汁と同様一人のカロリーを大体知らせる △辨當時に試食する	△本時は理論を主とする學習 △土地に求めやすい穀類及代用食品の調査 大麥、大豆、豌豆、甘藷、馬鈴薯、里芋、栗、大根、豆腐がら、うどん △代用食の指導に於いて(栄養素ビタミン)不足分の補給を知らす △前課の理論を基にして實習し家庭への實踐指導とす △味噌汁(復習)實習と組合せる 但し汁の實は各種變へる	

飯の炊き方 其ノ二	飯の炊き方 其ノ三	雑煮
二	二	二
1、甘藷飯の炊き方 混合の割合 火加減 水加減	1、大根飯の炊き方 混合の割合 火加減 水加減	1、味噌汁雑煮の作り方 2、澄汁雑煮の作り方
△澄汁(復習)実習と組合せる 但し汁の量は變へる	△大根葉の調理、方法 △大根おろし めざしの焼き方 △大根各種の調理法を指導	△家庭によつて味噌汁、澄汁の別がある △粗分けにして実習しその材料の(汁の量)調理法を比較し 對照せしめる △傳統的に土地により汁の量の違もある、それ等を生かして 營養的に考察することもよい △神橋の羹羹 △饅餅の供方 レテの折方実習(カズノホンニ参照)

第三 學期

題目	時間	備	考
とす んる	二	1、するとんの作り方 味噌汁 澄汁 2、するとんの營養と特質	△代用食の一種ともなる △郷土の季節的な野菜をとり蛋白質、炭水化物の營養を豊かに考察せしむ
煮 ぐ	二	1、煮ぐの作り方 水煮、調味の仕方 2、人参、里芋、午栗の營養	△普通水煮をせばその營養分の泌み出た水を捨てる場合が多い、それ等の點に注意 △調味料の使用順序に理解を與へる 砂糖はいつも先、醤油は後(醤油二) 水(二)
鶏卵 の 料 理	四	1、鶏卵の營養價值 2、鶏卵のゆで方、いり卵の作り方 3、鶏卵の見分け方	△鶏卵のゆでるだけが目的でない 一〇〇度——(五—八分)外部の卵白のみ固まる 一〇〇度——(一〇分)内外固まる温度と時間によつて固まり方の異なる事實を理解させる △いり卵の実習にはオムレツの仕方も卵料理として簡単なれば指導者のみ実習して見せる事もよい

汁粉	煮込 うどん	蒸パン
二	二	二
<p>1. 小豆の炊き方 2. 分量の定め方</p> <p>水 砂糖 塩 小豆</p>	<p>1. うどんの栄養價 2. 作り方 うどん(干)のゆで方 汁の作り方(澄汁復習) 3. 盛り方</p>	<p>1. うどん粉のねり方 2. 分量の定め方 時局柄一人分の定量を決めて不経済に 使用せないこと</p>
<p>△冬期は適した食物なれども小豆の少ない場合は都市では 晒あん粉を利用 △餅のない場合には甘藷を利用</p>	<p>△干うどんのゆで方 水に浸したものを熱湯に入れる、浸さないでそのまま 熱湯に入れる、その軟かさを比較してもよい △これのみで代用食に爲す場合の蛋白質その他の栄養 食品の取合せに注意</p>	<p>△これも代用食の一種としての食品なれば蛋白質及びビタ ミンの關係を考へ季節の野菜入りの蒸パンを作る、卵の 少ない時はいり大豆の水に浸したものは落花生を入れ てもよい △塩、フクラシ粉のみにて作りサンドウキツチとしてもよ い</p>

煮魚	焼魚	交際
二	二	二
<p>1. 魚の選び方、料理の仕方、煮方 2. 魚肉の栄養と野菜の附合せ</p>	<p>1. 魚の網焼、串焼の仕方 2. 魚の各種の焼き方の補説 照り焼 塩焼 白焼 等</p>	<p>1. 交際の必要について 2. 交際についての注意</p>
<p>△なるべく個人が實習出来る大きさのものを選ぶ △菜の浸しものを附合せ同時にゆで方も指導 △甘藷飯の炊き方復習</p>	<p>△小魚などはなるべく小骨を食する調理法を指導 △各自好みの焼き方に</p>	<p>△時局柄贈答は形式に流れず意義ある場合にのみ △訪問時の注意 服装、時刻、談話、動作 △接客 應對、宴應、見送り △高三 第三十二課参照</p>

題材	時間	備	考
献立	三	<ul style="list-style-type: none"> △一學年に於いて食物調理の實習も相當多くしたが當學年に於いて更に一段と高める意味に於いてこゝに献立の必要を解く △食品は作り、食するのみではない家人の健康増進を圖ることとを第一とし共に經濟的知識をも養ふこと △日本食の傳統として外觀の美を以つて主とした料理法が多い栄養の点より考察して改める 	
献立の例とその調理	五	<ul style="list-style-type: none"> △三食の献立についてそれら、差異の点を考察せしめ實習する △教科書を充分讀解させ研究調査をさせて置く △食品分析表により教科書の献立表による食物の栄養素の種類を算出させ保健上の適否を批判する △一般的に日本人の過食の点にも量的に比較す △割烹實習に於ける注意(高一と同様なれど更に一段と) 	

端午の節句	二	<ul style="list-style-type: none"> 1、赤飯の炊き方 小豆なき場合は黑豆 2、竹と切鰯の煮の作り方 3、矢ばすの酢煮の作り方 	<ul style="list-style-type: none"> △赤の御飯は普通米(外米)を用ひ炊き方も飯と同様(糯あれば教科書と同様) △赤の御飯及び切鰯は祝賀の際に使用される傳統的な料理を實習しその精神的訓練の取扱も重視する △赤汁の取方は重曹を入れる
卵豆腐の澄汁と茄子のしぎ焼	二	<ul style="list-style-type: none"> 1、卵豆腐の作り方 季節的な野菜を汁の實に添へる 2、茄子のしぎ焼の作り方 3、栄養、經濟價值について 	<ul style="list-style-type: none"> △卵豆腐はそれのみを食してもよい、木ノ芽、(生姜)を添へれば老人、幼児向に適する △卵豆腐は蒸加減が大切であるから充分よく觀察せしめて其の蒸加減の呼吸を會得せしめる △茄子のしぎ焼は其の實習中色の變化につきよく觀察させ其の焼加減を逸せぬやう注意する
炒飯と白菜の煮	二	<ul style="list-style-type: none"> 1、炒飯の作り方 冷飯でもよい 2、盛り方 3、白菜の煮の作り方 	<ul style="list-style-type: none"> △高等三學年 二十六課参照 △夏でも冬でも適した食品である △ベターとかラード等を用ひなくもよい △牛肉を用ひればその脂味を飯炒りに用ふ △野菜物を多く混合すれば節米になる(季節的のものを使用)

野菜 サラダ	密豆	病人 看護
二	二	二
<p>1. 野菜サラダの作り方</p> <p>2. 栄養價値の考察</p>	<p>1. 密豆の作り方</p> <p>寒天の炊き方</p> <p>密の作り方</p> <p>2. お八つの栄養價の考察</p>	<p>1. 日常の衛生、健康増進を計る</p> <p>2. 看護の必要</p> <p>3. 看護人としての心得</p> <p>4. 病人一般の看護法</p> <p>5. 病状の觀察</p> <p>6. 病室、病床其他注意</p>
<p>△マヨネーズ、ソース又はサラダ油がなくてもよい、ソースのみでよい</p> <p>△醬油・砂糖を用ひず盡、胡椒のみにて調味</p> <p>△季節的な野菜を用ひる(馬鈴薯、胡瓜、トマト、キャベツ人參)</p> <p>△簡単に附合せるものとしてハム、ソーセージを用ふ</p> <p>△高等三學年 三十三課參照</p>	<p>△兒童の好む夏季に適したお八つの作り方である</p> <p>△季節的な果物を用ひる</p> <p>△寒天は赤と白とを用ふれば色どりよろし</p> <p>△メリケン粉の小さい團子を作つてもよい</p>	<p>△女子は常に家人の衛生に注意し家人の健康の増進をはかると共に病氣を未然に防ぎ、病者の出来た場合は親切に看護する</p> <p>△脈搏・体温計・呼吸の取方計り方を兒童相互に爲さしめる</p> <p>△健康時に於ける脈搏、体温等の常狀の(家族)記測を必要を知らす</p>

病人 看護	手 當 急	病人 手 當
二	二	二
<p>1. 病氣の種類と食物との關係</p> <p>2. 病人の食物の種類</p> <p>3. 食物の與へ方</p>	<p>1. 應急手當の必要</p> <p>2. 應急手當の方法</p> <p>打撲傷 切傷 咬傷 火傷 腦充血 腦貧血 中 毒 3. 綑帶法</p>	<p>1. 藥劑用法の一般的要件</p> <p>内用藥、外用藥、蒸氣吸入</p> <p>2. 巻法</p> <p>溫暖法</p> <p>冷却法</p>
<p>△病は口から更に又病氣中食物により誤ることありその点に注意</p> <p>△粥の炊き方、重湯の取り方、くず湯の仕方、野菜スープの實習</p> <p>△半熟卵については高一鶏卵の調理の實際習したが更に研究的に取扱はす</p>	<p>△學校衛生室に於いて實地に當らせる</p> <p>△小さい切傷などにも消毒を忘れぬこと</p> <p>△綑帶法の實習をなさしめると同時に資源の節約法を計る</p> <p>△家庭常備藥について</p> <p>△救急法で最も大切なことは病氣の見別けの正確なること故に外傷のほかは醫師を招く迄の準備である故に深入りせぬことに注意</p>	<p>△藥用法はその方法を誤る時は生命にかゝはる 充分理解させる</p> <p>△兒童各自の家庭に於いては如何やうに藥用法をなしつゝあつたか實生活を調査研究させ合理的の方法を會得させる</p> <p>△家庭常備藥としての藥品及びその備へ方を合理的に指導</p> <p>△溫暖法の合理的方法を實演、實習せしめる</p>

題材	時間	練習要項	備考
精進料理		1、精進料理の意義 2、精進料理の作り方 3、精進料理の栄養價值	△高三 第三十七課參照 △孟蘭盆會の精進料理の見聞、更に各自の經濟を土台として もよい △彼岸料理の一例とする △土地に適した材料及方法を考慮し合理的に指導する
お萩・キャベツ きざみ漬	二	1、お萩・キャベツのきざみ漬の作り方 船の作り方 船の火の入れ方 盛り付け方	△小豆の無き場合は蠶豆、馬鈴薯、甘藷を用ふ尙挽茶、紅等 色づけすればよし △大豆粉(キナ粉)もよい △彼岸料理の一例 △キャベツを用ひずとも土地の野菜で栄養、經濟方面に留意
いなり 壽司	二	1、いなり壽司の作り方 飯の炊き方 酢の合せ方 2、混合食品の栄養價值	△節米料理 △季節的な野菜物を多く混入する △節米として豆腐がらを混合してもよい △高三 第十八課參照
海苔巻 壽司	二	1、海苔巻壽司の作り方 2、海苔の扱ひ方	△海苔の外に昆布を用ひてもよい

ちらし 壽司	栗の飯 きこの と豆腐 の葛汁	哺乳
二	二	二
1、ちらし壽司の作り方 2、盛り方及栄養價值の考察	1、季節料理について 2、栗飯の炊き方 3、茸と豆腐の葛かけ汁の作り方 3、栄養價の考察	1、家族健康の主責者 2、國家・民族發展の根源 3、我が國の乳幼児死亡率 4、壯丁体位の下向について 5、科學的兒育法 6、母乳哺育と人工哺育
△節米料理 含水化物、蛋白質其他各種營養素を混合することが出来る △偏食の矯正料理ともなる △外觀内容ともに留意 △人參など使用する時は葉は色どりとして使用する外栄養價 多し	△都市にて栗の少ない時は枝豆飯又は甘藷を用ふ △茸の殺菌作用及び毒茸のみかた △豆腐の煮方に注意	△先づ母体の健康の必要について △妊婦の營養攝取について △母乳も夏季には栄養量少なく往々乳兒を死に致す例もある △人工哺乳器の選定及び之が取扱ひ方は實物を充分觀察させ て會得せしめる △人乳の無き場合人工栄養及び混合栄養の合理的哺乳を考察 せしめる

乳児の衛生	離乳	幼児の食物	小児の病氣
二	二	二	二
<p>1、乳児の健康の特徴</p> <p>2、乳児の衛生上必要な諸注意</p> <p>泣き方 抱き方 寝方 遊び方 嘔吐の當て方</p>	<p>1、離乳の必要な意義</p> <p>2、生齒時期の衛生</p> <p>3、離乳期前後の食物と其の方法</p>	<p>1、幼児の食物について</p> <p>2、その献立と料理法</p> <p>おじやの材料及作り方 つぶし馬鈴薯の作り方 ブテイング材料及作り方 卵 砂糖 牛乳</p> <p>3、栄養價値の考察</p>	<p>1、小児病の手當の必要</p> <p>2、小児病の種類及手當</p> <p>3、小児間食の良否</p> <p>4、玩具の選び方</p>
<p>△各自生後の体重及其の様子を母より尋ねさせしめしめる</p> <p>△母の慈愛を感謝しつゝ更に妹弟への手傳ひとす</p> <p>△親類等の乳児の様子を經驗發表</p>	<p>△此の時期に於いて最も死亡率が多い、その原因を指導せねばならむ</p> <p>△兒童の見聞せること、體驗せることを問答して學理的根據より批判して合理的に指導</p> <p>△特に現今に於ける食品不足の折注意を要する</p>	<p>△離乳期後に於ける食物は充分周密なる注意のもとに栄養方面に留意し食品を選定し料理せねばならん</p> <p>△其の一二の實習を爲す</p> <p>△消化器に關する知識を與へ特に規則正しい時間と咀嚼の習慣等について</p>	<p>△小児は國家の尊い一人である病等不注意のため不幸に陥らしめぬこと</p> <p>△小児の間食の必要とその方法について特に改めねばならん</p>

正月料理	澤庵漬
四	二
<p>1、正月料理の意義について</p> <p>2、雜煮</p> <p>粥 照りごまめ 煮豆 口取り</p> <p>の作り方 一 の作り方 二</p> <p>3、栄養上經濟上の考察</p>	<p>△大根の干し方</p> <p>早漬 夏越 干し方</p> <p>漬け方實習前の指導</p> <p>△漬け方</p> <p>大根の處置法 糠、塩の關係 樽について 挿ぶた 挿石</p>
<p>△郷土的な實際生活に即するのみならず傳統的な料理に親しませると同時に國民の一人たることを正月の祝を通して大責任と同時に感謝の念を深くする</p> <p>△正月料理の改善法をも考察せしめる</p> <p>△時局柄食少なきものゝ利用方法について特に肝要</p> <p>△神棚の整美について</p> <p>△饅餅のシデの切り方</p> <p>(カズノホンニ 参照)</p>	<p>△學校實習地圖のものを使用、干し方からの作業が必要である</p> <p>△この時間は只漬ける實習</p> <p>早漬 夏越 塩加減について</p> <p>△家族の少ない場合樽の上層下層の塩加減の必要</p>

題材	時間	備成要項	備考
肉の調理	四	1. 牛肉のすきやき鍋料理法 肉の炊き方 調味料の入れ方 野菜の煮方 2. 焼肉の料理法 肉の焼き方 野菜のつけ合せ 3. 肉及野菜の栄養的考察	△牛肉でも兎肉、豚肉でもよい特に普通牛肉を求めた時に上にある脂肪の融解法とその合理的なる炊き方を指導する △普通炊く料理の場合醬油は最後に砂糖は早く(醬油は食品を硬くする) △台所料理中醬油及砂糖のみをもつて調味することが多い、砂糖及醬油の節約料理として塩、胡椒にて調味する料理法も必要 △油の温度の見方について指導 △油鍋の使用後の處置法 △實習中鍋に火の入りたる時の處置法 △衣の作り方の注意 △衣の中に煮干粉を入れカルシウム及蛋白質の補給をなす △簡単に出来る、何も西洋料理の真似ではない、カレーの素として八百屋に販賣してゐる(安價)肉を用ひなくとも魚でも川魚でも兎肉でもよい △郷土に適した料理法にすればよい △節米として馬鈴薯飯にすれば結構 △人参を用ひた時は葉を色彩として用ひる尙栄養價大
揚物	二	1. 揚物料理の特徴 2. 揚げ方、油の取扱ひ方 特に火加減に注意	△油の温度の見方について指導 △油鍋の使用後の處置法 △實習中鍋に火の入りたる時の處置法 △衣の作り方の注意 △衣の中に煮干粉を入れカルシウム及蛋白質の補給をなす △簡単に出来る、何も西洋料理の真似ではない、カレーの素として八百屋に販賣してゐる(安價)肉を用ひなくとも魚でも川魚でも兎肉でもよい △郷土に適した料理法にすればよい △節米として馬鈴薯飯にすれば結構 △人参を用ひた時は葉を色彩として用ひる尙栄養價大
カレーライス作り方	二	1. カレーライスの作り方 馬鈴薯飯 野菜の調理 カレーの素のとき方 入れ方 2. 盛り方 3. 栄養價の考察	△簡単に出来る、何も西洋料理の真似ではない、カレーの素として八百屋に販賣してゐる(安價)肉を用ひなくとも魚でも川魚でも兎肉でもよい △郷土に適した料理法にすればよい △節米として馬鈴薯飯にすれば結構 △人参を用ひた時は葉を色彩として用ひる尙栄養價大

茶碗蒸し	敬老	一家の経済
二	二	四
1. 茶碗蒸しの作り方 人参 百合根 焼魚 みつば 卵のほぐし方 煮出汁の作り方 2. 配膳の心得 3. 栄養價の考察	1. 我國古來の道德的美風について 2. 精神的奉養 3. 身体的奉養	1. 一家の收入、支出 2. 消費の合理化 3. 豫算と決算 家計簿記 4. 貯蓄 節約利用 經濟報國 5. 家事經濟と國家經濟との關係 一家々々の台所が國家に響く
△冬季に適したものととして選んだ △卵の少ない時には葛を用ひてもよい △蒸し方の要領は卵豆腐の作り方と同じ	△我國建國以來より忠孝一本の本意を以つて君に忠父母に孝への務である △只今兒童自身祖父母への仕へを指導する事を忘れてはならぬ △孫として愛せられてゐるそれに甘んぜず最も近い祖先を敬の眞心を捧げねばならぬ △收入 經常收入 臨時收入 入るを計つて出づるを制す △支出 經常支出 臨時支出 慾望の精神化 生きてゆく爲に必要な費用 △財貨價值を利用する上に最小の費用を以つて最大の効果を收めること △現在に於て貯蓄をするのではない、何んでも利餘を作り出して貯蓄をする義務がある、經濟報國、台所報國 △我が國の婦人は一般に經濟能力に乏しい、しかも目標を誤る点が多く外見のみに生活をしてゐる個人的に生活の満足を求める △この現在何かにつけ生活改善の過度期である、台所經濟の立直しが今である	△我國建國以來より忠孝一本の本意を以つて君に忠父母に孝への務である △只今兒童自身祖父母への仕へを指導する事を忘れてはならぬ △孫として愛せられてゐるそれに甘んぜず最も近い祖先を敬の眞心を捧げねばならぬ △收入 經常收入 臨時收入 入るを計つて出づるを制す △支出 經常支出 臨時支出 慾望の精神化 生きてゆく爲に必要な費用 △財貨價值を利用する上に最小の費用を以つて最大の効果を收めること △現在に於て貯蓄をするのではない、何んでも利餘を作り出して貯蓄をする義務がある、經濟報國、台所報國 △我が國の婦人は一般に經濟能力に乏しい、しかも目標を誤る点が多く外見のみに生活をしてゐる個人的に生活の満足を求める △この現在何かにつけ生活改善の過度期である、台所經濟の立直しが今である

自由 献立	家庭 生活 の 合理化
二	
卒業を前に描へた兒童實生活に間に合ふ家事作業として如何に應用出來得られるかを試みとする 一人一食分の經費を定めその範圍内に於て各組別に立案せしめ實習を爲し各組相互に批判反省せしめる 但し立案の献立を一度提出せしめ訂正の可否を見てやること	<p>1、家庭生活の合理化の必要及び方法</p> <p>2、家庭生活合理化と婦人の任務</p> <p>△年中行事の豫定 齊家報國</p>
	<p>△家庭日常の生活を舊來の習慣家風をそのまま繼續するのは現在の生活には不合理の点が多い、科學的の理法に照して生活にゆとりを生ぜしめる事である</p> <p>△婦人には特に虚飾の点が多い</p> <p>一家の一人ではない一國の一婦人として責任を負ひもつと</p> <p>太い大きい眼で世間を見なければならんと同時に簡素生活の中にも又楽しみその内にあり、一族の楽しみ慰安を與へる家でなければならん</p> <p>食物改善——<u>營養的</u>改善</p> <p>食物改善——<u>經濟的</u>改善</p> <p>衣服改善——舊來の風習が抜けきらない</p>

藝能科裁縫目次

一、藝能科裁縫の目的

1、普通の衣類の裁縫に習熟せしめること……………三六

2、衣類に関する常識を養ふこと……………三六

3、婦徳の涵養に資すること……………三七

二、藝能科裁縫教授方針

三、藝能科裁縫教材の考察

1、初等科四學年の取扱ひ……………三八

2、同 五・六學年の取扱ひ……………三八

3、高等科一・二學年の取扱ひ……………三九

4、運針時の取扱ひ……………三九

四、藝能科裁縫教授上の注意

1、圖案に添ふ指導……………四〇

2、死蔵衣服の廢止……………四一

 利用再生法……………四一

 物質尊重の念を深める……………四一

3、鏡の指導……………四二

五、吾校に於ける藝能科裁縫指導の系統案

1、四學年指導方針……………四三

2、同 教材配當表……………四三

3、五學年指導方針……………四三

4、同 教材配當表……………四三

 六學年指導方針……………四三

6、同 教材配當表……………四三

7、高等科指導方針……………四三

8、同 教材配當表……………四三

9、藝能科指導案の例(裁)……………四三

10、藝能科裁縫指導案(複式)……………四三

一、藝能科裁縫の目的

「藝能科裁縫は普通の衣類の裁縫に習熟せしめ衣類に関する常識を養ひ婦徳の涵養に資すること」

1、普通の衣類の裁縫に習熟せしめ

日常生活に於いて一般に着用してゐるその衣類を面倒がらずに仕立てるその力を修練し習熟せしめること。何れ教科書が編纂されるが只今舊教科書中に於いては初等科四、五學年では主として下着類(襦袢)及衣類構成の基礎となるものが擧げられ初等科六年高等一・二學年には上衣(長着、羽織其他)衣服に関する常識を指導する様になつて居る。其の内容は土地の状況に依つて異なる事であらうが傳統にのみ拘泥せず時代の推移により合理的にして且日本衣服の改良點なども考察せしめる指導にありたい。

國民學校に於いては時間及材料の關係上總べてを習熟せしめる迄には困難とも思はれるがその基礎となる技術の修練を部分的にでも反覆練習せしめる必要がある。

かくて子供ながらに日常の衣服を出来るだけ役立つ迄に努力せしめるとともに將來合理的に裁縫するの力を養成せしめることである。

2、衣類に関する常識を養ひ

衣服の裁ち縫ふ技術のみの目標でなく

- (1)、材料購入の場合に性質、品類、産地、價格、色彩等につき考慮して選擇すべきこと
- (2)、使用目的により着用者により時、處、職業、年齢、仕事等に適切なる衣類並びに材料を選擇すべきこと
- (3)、衣服の着方、着附、使用法、更生法についても常識を有たすべきこと
- (4)、衣類の整理保存即ち洗濯、染色、畳み方、藏め方、手入等について研究すべきこと

(5)衣類に關し保健、經濟、容儀、禮法、等より研究して服裝生活の指導をなす

要するに使用の目的、着用者等それ〴〵適切なる衣類を選擇するの能力及時局柄服裝生活を單純化せしめるその工夫創作力をも養ひ高尚な趣味のもとに品位ある服裝生活をなし得る様常識の養成をなし將來衣服を處理する實際生活の原動力となすべきである。(主としてこの項は高等科に於いての取扱)

3、婦徳の涵養に資すること

裁縫に於いての婦徳の目標は女子の特徴たる淑やかさ、和やかさ、落ちつき、綿密、忍耐等裁縫學習を通してそれ等の美徳を修練いたすのである。もみち手に持つ一針一針真心こめて運ぶその態度自分の手でお手玉も辨當風呂敷も出来るそのよろこびから、まだ袖もつかない内から手を通して出来上りに近づくそのよろこびの學習、その中にも長期に渡る辛抱強さ、悪ければよくなる迄直す等製作過程に於いて婦徳を中心に育成されるのである。愛らしいエプロンの仕上げに餘念ない和やかな氣分さては自分の幼着の仕立替へするその内に母御の慈愛に感謝するその從順の氣持等々一枚の衣服を仕上げると迄には精神的にも形式的にも大いに修練され行するの學習でなければならむ以上裁縫の本質を考へると單なる裁縫の技術の傳達のみではない。心身を打込んだ魂の入つた學習道である。かくして科學的に合理的裁縫生活を営み得られる皇國女子を育成し婦徳の涵養に資する様努むべきである。

明朗にしてしかも奥ゆかしさがあり且つ腕のある頭のある實踐力のある女性であらしめたい。俗に言ふ朗らかとは辯舌さわやかにして口先ばかりで實行の伴はぬその朗らかと解せないことである。

二、藝能科裁縫教授方針

- 1、現代の服裝文化への順應と其の發展とを目指して教材を選擇し之が運用を期すること
- 2、兒童の自發的能動的な態度より出發して次第に創作的發見的學習にまで進むやう陶冶すること

- 3、初等科に於ては自發的學習態度の養成用具の正しき使用法と其の手入、衣類構成に關する基礎的陶冶並びに創作力の養成女子としての徳性の涵養を目標として指導す
 - 4、高等科に於ては自發的前習態度の確立、裁縫技術の錬磨、衣類に關する知識の充實、實際生活に適切なる衣類の表現、女字としての徳性の涵養を目標とし、皇國女子たるの任務を全うすべき根底の修練をなす。
- 尙詳細は當校學年系統案の方針を参照されし。

三、藝能科裁縫教材の考察

「初等科に於ては運針簡易なる衣類の裁ち方縫ひ方及繕ひ方を課すべし」

1、初等科四學年の取扱ひ

初等科四學年に於ては裁縫の根本的基礎の運針に習熟せしめると共に標附方、待針の打ち方、尺度、匏の使用法布帛取扱等種々の附帶的基礎技術の修練及衣類裁縫に導く準備工作としての教材をとり裁ち方、縫方、くけ方等の基礎的技術を授けて練習せしめると同時に其の構成法を理解せしめる

2、初等科五六學年の取扱ひ

初等科五・六學年に於ては從來の教授時數より一週一時間宛減じたが義務教育として二ヶ年延長された關係上教材の内容に於いても其の取扱ひに於いても大いに考慮しなければならむ

- (1)、徒らに實物を縫ふことのみを主とせず、衣類構成の基本となる材料を取り、理解せしめ合理的に裁縫せしむべきである。
- (2)、裁ち方、縫方と同時に柄合せ、積り方、標つけ、仕上等の指導も重視すべきである。
- (3)、洋服に於いても同様デザインの指導更に附屬品及び選び方、等常識についても指導する。

(4)、現下の如き時局に於ては衣類の生命を幾分でも長くする爲めに日々の手入は勿論、十分修繕の用を知らしめると共に特に小破の中に怠らず手入することを實行せしめ、資源愛護の精神の徹底を期せねばならない。

3、高等科一二學年の取扱ひ

高等科に於てはその程度を進めて之を課し且材料の選擇、整理、保存其他衣類に關する常識を養ふべし。即ち高等科に於ては初等科の程度を進めて長着、羽織、帯、子供服、簡單な婦人服、作業服、寢具類について實習せしめて實際に役立つまでに技術の錬成をなさしめると同時に衣類に關する常識の指導を必要とす

4、運針時の取扱ひ

運針の練習は各學年を通じて必要である。

運針の目的

針目を正しく

眞直ぐにきれいに

早く縫ふ力をつける

僻を直す(手僻、姿勢)

等各學年に於いてそれ／＼要求せられる點(練習時間、方法、質、量)には差はあれど目的は一つである。運針の學習は技術の修練以外に精神的に訓練せられる重要な一場面だと考へられる。

布、針の持ち方、目と布の距離、目のつけ所、足の位置

この姿勢、この態度、これ裁縫道に於ける「かまへ」の態度と思はれる。薙刀の、劍道の「かまへ」型の指導を厳しく申されるそれと似通ふものであると思ふ。技術の上達も、姿勢、態度のその心構へ、基礎力の修練、尙且不斷の努力に依つて左

右せられるのでその點から運針時取扱は重要視せらるべきである。
布と針と心、即ち心身一体となつて黙々と運ぶ針それ以外に何もものもない境地、教科の性質上運針時のみが組全見一つ心で當校信條中の「何事も心を合せていたします」上學年の運針時をながめた時には敬虔な感にうたれます。この態度が作業全般に及ぼされること、信じられる。

四、藝能科裁縫教授上の注意

1、國策に添ふ指導

「家事と相俟ちて家を齊へて國に報ずるの精神を漸養すべし」
「勞費をふせけ」「節約せよ」

非常時局にかゝはらずこの言葉は生活には切り離せないものであるが特に現在に於いては必要事項である。家庭内の消費經濟の中でもこの衣服に勞する費用は相當に多い現時局に於いては最低限度の衣服生活費をもつて最大使用價値の生活を爲さしめる様指導を通して自覺せしめたい。

現在何が故に毛糸が少ないか吾制服もス・フを使用してゐるか。なぜ縫糸迄も統制を必要とされて居るか。木綿織物は過去の生活に比して敬虔の念をもたせてもス・フ織物と比較してとやかくこつ時ではない。新興織物に對してはかく迄人力に依つて精密に製成されたその功績に感謝の意を持たしめねばならぬ。故に裁縫生活に於いては出来るだけ切りつめる工夫不自由を憚んで乗り切る覺悟のある強き意志力を必要とする。ス・フと言へども出来るだけ求めないやうに求めたものは手入、保存、縫方によつて出来るだけ衣類の壽命を長持ちさせる方法を指導せねばならぬ、例へば要所々の留め方に於いても今迄の織物ではすくひかくし留めでも布は持ち答へられたであらうが今の布に於いては力布をあて結びどめの方法は確實に出來又解き放しも樂である。新興織物に對しては特に縫方、裁ち方の新らしき知識として知らねばならぬ。

糸の纏ぎ方も機結びより重ねつぎの方が安全である事などは實際布の伸縮による事實から指導したいものである。
一枚の着物といへども出来るだけ長く持たす事が一家の經濟の爲めならず國策に順應するの心構へが肝要である。

2、死蔵衣服の廢止

「日常所用の材料を用ひ土地の情況に適切なる指導をなし節約利用の習慣工夫考案の力を養ふに力むべし」
我國の傳統として女の生命は衣服にあるとされ箙筒長持ちに多くの衣服を蔵して居る事が誇りであつたが時局に於ける衣服生活は昔のそれとは一八〇度の轉廻である。現在の立場では多く持つ者不必要の買だめする者は戰時生活一億一心の重大さを識らない者なることをこの裁縫時を通して指導し認識せしめねばならぬ。

現在は昔の賣の持ちぐさりにならんとしてゐるものを利用し再生さすべく教材材料を持參せしめなるべく新品をさけしめることである。仕立替へ切り替への衣服の製作を望み尙繕ひの指導を多く課すると共に小破の時に手入をなすの習慣をつけ資源愛謝の精神の徹底をはかる。

此の度家事から洗濯教材及び衣服に關する一切は裁縫にゆづられた關係上高等科に於いては一層手藝と關聯して實際生活に間に合ふ再生法を編み出されなければならぬ。

△物資尊重の念を深める

學校の備品(アイロン、尺度、くけ針臺、ミシン其他)は大切にせねばならん事は承知はして居る。公共物に對しての取扱ひは裁縫時のみの指導ではない。各自の用具(鋏・針・指貫・筥・糸)等も勿論大切に使用し整理、整頓せねばならん事は知りつゝも粗末にするのは子供の常である。小さい裁縫箱の整理、整頓これがやがて針箱を中心として一家を切り守りするそのスタートである。指貫一つ紛失したそれを尋ねるより僅かの價の物故に販賣部へ走ればすぐに自分には間に合つた。それではいけない。自分の家の金で求めるのだ自分一人が満足して事足れりの世の中ではない、興亞を荷負ふ少女は母の祖母の少女時代とは大いなる變隔がある。事柄は如何に小さくとも今自分の爲して居る行が國民の一人であるその責任と自

覺を持たしめたい。縫ふ材料は勿論のこと指貫一個針一本でも「大君の御預りのお品」である事は幼い時からの躰が土臺となる、かくして物に對しての感恩の念、敬虔の念を一層と深刻ならしめねばならぬ。

3、躰の指導

「躰を重んじ姿勢態度に留意し用具の適切なる使用並に整理につきて訓練すべし」

裁縫は裁ち縫の上手又きれいに仕上げその外に前述にも述べた如く過程に於いて將來針箱を中心として一家を切り守りし御國に役立つ皇國女子として恥かしからぬ人格たらしめるには躰の指導その訓練を必要視せられてゐる。特に裁縫時は個人的に矯正の機會をとらへ直接指導に當る。

針箱の正しき置き方

待針をとればすぐ針山にもどす

針使用後は必ず箱に返す

糸は必ず糸で切る

仕事中でも箱が斜になれば直す

等常に裁縫箱は整理、整頓せしむべきである。用具の整理、整頓、實習材料の整理、整頓、教室の整理、整頓等に不斷の注意を以つて習慣づけ將來に於いて學校の習慣に家庭に於いてもすぐに役立たしめる様躰ける事が大切である。

用具の使用法も簡單には考へられるがものさしの持ち方、筥の使ひ方等正しき使用の訓練は作業の能率を上げる上に効果あるのみならず躰の上からも大切である。

用具箱の整頓もよろしく置き場所が正しければ當然姿勢も正しく作業が續けられる。しかし身体上机、腰掛の高さにも注意を要する。

尙「態度に留意し」とあるは作法上の訓練に關する事である。物の受渡し、話し合、作業後の處理等、形から入つて内面的

に及ぶ力も亦大なるものを示されて居るのである。

五、吾校に於ける藝能科裁縫指導の系統案

1、四學年指導方針

1、學校裁縫生活への最初の門入りである。初時の取扱ひには特に今迄の人形ごつこの生活延長と言つた様な氣分をも充足させながらこれを善導し漸次裁縫目的へと伸展めしめて行く。

2、故に最初から技術的方面の取扱ひに過ぎないこと兒童の心的動機を助長し機會をとらへつゝ指導しよろこびの學習へと延したい

3、自發的學習態度の養成

裁縫は自分で考へてやれば出来る、面白い、何んでもしてみたくなる、又せねば氣がすまぬと言ふ態度を初めの取扱ひから養成したい。この頃は只作ることに興味を持つ時代であるから、子供らしい工夫及計畫の爲される様指導し更に創作的態度への指導をする。

4、裁縫用具の合理的な使用法並びに用具の取扱ひに留意し尙用具箱の整理整頓は重要な躰の一部面である。針一本でも大切にすの習慣は低學年よりの躰が根本となる。

5、二學期からは四學年にふさはしい實用的教材となる製作過程は勿論仕上後も悪ければよくなる迄直さねば氣がすまぬ正しく仕上げるの學習訓練をなす。

6、以上は四學年指導方針と同時に裁縫生活の土臺ともなるべき事項なれば各學年通じての修練事項である。

初四 學習 教材 每週二時間

第一學期 豫定時數約三〇時 一時間

- 用具調べ
- 運針
- 雑巾
- 模様縫
- お手玉
- 同入袋
- 枕カバー
- 自由教材

第二學期 豫定時數約三〇時

- 御辨當風呂敷
- ズロース
- 前掛
- 自由教材

第三學期 豫定時數約二〇時

- シャツ
- 自由教材

2. 同 教材 配 當 表

第一學期

教材	備 考	環 境 整 理	備 考
<p>1. 用具の名稱</p> <p>2. 用具の使用法</p> <p>3. 用具整頓の位置</p> <p>4. 自由裁方の運針</p> <p>糸のさし方</p>	<p>○既知事項の整理及び學習</p> <p>○正しき使用法への理解</p> <p>○用具は必要なもののみを持参</p> <p>○用具への記名</p> <p>針と糸さへあれば早く縫つてみたがる兒童故初時間に自由に縫はしめて學習動機を喚起せしめる</p>	<p>用具一覽表</p> <p>裁縫用具完備</p>	<p>○針、指買等は各兒に當て一々檢閲して指導</p> <p>○運針用具(五〇種)</p> <p>○早く針目に注意させると大膽に縫はない</p> <p>○各兒の従來のくせ、缺點を知悉しておいて全体的に部分的に個人的に指導してゆく</p> <p>○上手な者の運針を見せる機会を多く作る</p> <p>○毎時間の初めに練習する必要あり</p> <p>○二學期頃より個人のレコードを取る</p> <p>○素縫も必要である</p>
<p>1. 委 勞</p> <p>○正しき姿勢の取方</p> <p>椅子の高さ</p> <p>机の高さ</p> <p>腰のかけ方</p> <p>○姿勢と仕事する時の氣持</p> <p>2. 手 合 針</p> <p>長さ</p> <p>完全な針</p> <p>3. 手 合 指 買</p> <p>長さ</p> <p>太さ</p> <p>4. 糸 通 し 方</p> <p>太さ</p> <p>5. 正 しい 運 針 の 仕 方</p> <p>布の持方</p> <p>布の動かしかし方</p> <p>左右の手の位置</p> <p>握り方</p> <p>6. 運針布の整理</p>	<p>各種の針</p> <p>各種の指買</p>		<p>教科書</p> <p>裁縫</p> <p>初四</p>

教科書

巾 類	機 標 機	お 手 玉
1、布の大きさ、厚さ 2、雑巾の縫方 直線 斜線 縫糸について 3、待針の使用法	1、圖案の工夫(紙) 2、布への寫し方 3、縫方の研究 糸の留方、つぎ方 糸こきの必要、仕方	1、自分の力で製作出来る型のきめ方 2、同じ大きさの物を数個作るその標準の定め方 (型紙によることへ) 3、布裁(小切の利用) 4、縫方の研究 どこから縫ふか 糸の太さ 針目の大きさ 5、中には何を入れるか 6、中味を入れた後の始末 7、仕上げ
各種出来上り標本	紙 標本 前學年兒のよいもの	今まで遊びに使用したもの、調べあるものは持参 標本
○雑巾とは古布をさす様に思はれるがこの時代の子供の要求するのは机上を清潔にするに使用するもので幾分美のものに作る ○待針は初めは少し困難とも思ふが使用方法をらしめる	○機標はエンピツで布に畫かしめる ○裏から縫はしめる従つて表と表の針目の認識がつく ○糸は必要の色糸使用 ○花瓶敷用のものは手頃である ふち飾としてまとひ縫も指導するよい機會だ	○枕の實習をこれに代へた ○大きさは枕と大いに異にするが縫方方法は大同小異餘り差がない 尙生活にふさはしく子供の製作欲は大きい ○數個を製作する中にだん／＼上達し更に色の配合、裝飾などの工夫創作も生れる

枕 カ バ	お 手 玉 入	自由教材
1、大きさ 2、布地のしらべ 3、縫方研究 スナップつけのものか 紐つけか 袋縫か 4、周囲の飾りつけ ギャダ布について 5、仕上げ	1、袋の大きさ 2、縫方の研究 ○袋縫 角縫 丸味の縫方 直線の縫方 ○三つ折縫 ○返し縫 3、袋と裝飾 4、仕上げ	1、カバーの仕上げたものから自由の教材で製作せしめる
カバー各種の標本 白布織物の標本 (但し今ではその布なし)	各種袋の標本 各家庭にある袋の持参	
○鉄の使用方法は初めてこの課で指導するのではないが既習材料に於いては小布ばかりであつたから特にこゝで指導する ○時局柄白布と言つても無理は言へぬ、何でもよい利用出来るもので製作せしめる	○單の袋の製作と云つても各自の要求によつて多種多様である 自分の製作材料によつて各々學習内容をつかみ得るやうにしてゆく ○故に製作する型によつて難易がある ○縫ふ材料が複雑になると机上が不整頓になる、注意	

教材	備	環境整理	成要項
敷呂風當辨お	○學期はじめは運針の練習が必要 ○特に用具箱の整美点を最初に調べる ○耳はそのまま、裁目は何故に縫はねばならぬかを考察せしめ三つ折縫の要点も實際的にあはせて納得せしめられる ○枕カバーから登めてアイロンを使用さす、特に後の始末に充分注意	各種ふろしきの標本 兩耳のもの 片耳のもの 耳なしのもの	1、型紙の取り方 2、布の裁方 3、縫方研究 4、仕上げ 5、エプロンの清潔について
スーロズ	△自分の体につけるもの、初めての製作で大いに期待してゐる △普通腰巻と比較すれば理解も容易である △型紙になるまでの過程の指導が必要である △平面的にみたものと身体を包む立体のその型の理解 △時局柄如何なる布にても製作するの態度を養ふ △残り布の利用法 △袋三つ折縫の目的及必要を縫ふ箇所によつて自覺させる	スナップつけのズロ 既成品 型紙の分解内生地 標本	1、自分の好きな形の作り方、 2、布の裁方 3、縫方研究 4、仕上げ 5、エプロンの清潔について
前掛	△寸法の定め方は裁縫新教授書参照 △自分の使ふもの又は母姉のもの △裁縫小布を利用 △紐は中央(身頃へつける部分)をのこし両端を縫つてかへす、後つける △後結びのものは巾が広い故に三つ折縫 △折金の必要及有効な使方	既成標本各種紐のく け方 飾布つけ標本	1、自分の好きな形の作り方、 2、布の裁方 3、縫方研究 4、仕上げ 5、エプロンの清潔について

教材	備	環境整理	成要項
運動	△運動シャツ △型紙の構成を知る方法として用紙にて雛型の切り取りをさす △前明の場合は上欄の縫方でよいがかぶり又は袖あるものは異にす △袖つけを先にし脇縫を後にする方法もある △如何なる順序でどんな縫方で製作すればよいか考察せしめ自覺的態度への學習に △着用後の感想を聞く	實物標本 製圖の割出し圖解	1、型の取方 2、布の裁方 3、縫方研究 4、仕上げ 5、エプロンの清潔について
自由	四學年一ヶ年の感想の發表		1、児童の自由題材とす 2、題材及材料により各自個人指導とす

3、五學年指導方針

- 1、前學年に於いて養成されつゝある學習態度を一層の進歩發展を計り其の確立に力める。
- 2、衣類構成の基本となる裁方、縫方をよく理解せしめると同時に柄合せ、積り方等の理解を深める
- 3、既成品(商店、家庭)標本の觀方及び讀物による參考物の利用活用法をも知らしめる。

初五 學習教材 毎週二時間

第一學期 豫定時數約三〇時

ミシン使用法 八

スリーブ 一六

自由教材 六

第二學期 豫定時數約三〇時

中裁肌襦袢 一四

寝冷知らず 九

くつ下繕ひ 七

第三學期 豫定時數 二〇時

小裁單衣 二〇

4、五學年教材配當表

第一學期

教材	練成要項	環境整理	備	考	
習 練 シ	<p>1、足踏の練習 ○姿勢の位置 椅子の高さ 腰のかけ方 踏む時の力の入れ方 踏む方の練習 ○ハズミ車に手をつけぬ練習 早く納得させる 運速をつけて踏む練習 ○縫方(紙厚手のもの) 針の刺方 直線縫 曲線縫 両手の位置 糸の通し方 ボビンの調整 布の整理の仕方 縫りの布のはづし方</p> <p>2、布を用ひての練習 糸の通し方 ボビンの調整 布の整理の仕方 縫りの布のはづし方</p> <p>3、調子のとり方 上下糸の調節 針目の調節 針目の後始末</p> <p>4、ミシンの後始末</p> <p>5、ミシンの手入保存法</p>	<p>ミシンに関する圖 調子のよいミシンの 針目 上糸下糸の強弱を表 はした布縫 大針、小針の加減し た縫布 各種附屬具を使用し た標本</p>	<p>○家庭にミシンのある兒童でも最初の注意から練習する、ミシン使用の訓練が必要 ○足の位置及姿勢は仕事の能率に關係するから注意 ○最初にハズミ車を持つ習慣がつくと改めるのは容易でない ○畫用紙にて針の進み方を見るには丸・角の隙寫りを用ひる ○用布(雜巾)の練習時は必ず直線縫から入る、さうすれば曲線縫は練習しなくとも出来る ○附屬品は必要に応じて ○布への練習が出来れば既習のエプロンを自由に製作せしめる その間に不練習のものゝ上達を計る</p>		

教材配當表 初五

材教由自	ブツリス
児童の自由題材とす	1、型の取方 所要採寸 製圖 2、布裁方 布地調べ 布見積り 巾と丈との關係 布目と型の中心点 型紙と縫代 冗のない裁方 3、縫方の研究 縫方順序の研究 4、仕上げ スナップつけ
	各種の標本 各自の實物 製圖の分解圖 部分的の標本 プリント
海濱學校前なれば手提袋などを製作する。	○なるべく簡單なる型の取方を望む ○製圖法は一定なれども型の變化は各兒の工夫に俟つ ○バイヤース・テーパ・レースなどはなるべく求めずに殘布を利用 ○仕上げの悪いところはどこまでも直す習慣をつけ丁寧に仕上げをなす

第二學期

方ひ繕下靴	ざらし冷宸	袴襦肌裁中	教材
1、靴下の洗濯方法 2、破れの調べ 3、繕ひ方 なるべく同布質の補綴布を利用	1、型紙の裁方 2、布裁方 型紙の置方工夫 3、縫方研究 首廻りはやわらかい布を用ふ 4、仕上げ	1、各部の名稱及寸法 シヤツと對照 2、裁方 裁方練習 布の測り方 裁切寸法及見積り 3、標つけ 鉄の入れ方 布の置き方 寸法の計り方 4、縫方の研究 仕上の研究 5、仕上げ 半袴掛け	鍊成要項 環境整理 備 考
補綴方法の標本	プリント 各種の標本	實物標本 基礎縫各種標本 縫ふ過程の觀察標本	
○時局柄特に繕ひ方必要である ○再生利用 物に對する感謝の生活を知る ○この時間のみに終らず以後の實踐を必要とする ○各種繰くろひの部分指導	○裁縫教授書一九〇〇 何れもよい ○型紙の置方工夫によつて手拭一枚で出来る ○時局柄如何なる布にてもよし 子供らしい飾をつける	○はじめて和服の仕立への學習に入るのである ○縮尺用紙にて裁方の實習 ○用紙の裁布にて衣服の構成理解を與へカード練習をなす ○縫ふ實習は時局柄大裁でも小裁でもよい ○標つけの正確を養ける ○春縫は標つけ前 ○正しき用具の使用法 へら、物尺 の訓練に	

教材	構成要項	環境整理	備	考
小	1. 各部の名稱及寸法 肌襷袢と對照 2. 裁方、積り方しらべ 分解標本にて裁方圖解 裁方各種しらべ	プリント	○衣服構成の明瞭なる標本を用ふ(例へば衽布、身頃、袴、袖それら)色を替へて部分のよくわかるもの) ○分解標本により裁方の容易なることを初學習の時より了解せしめる ○尙解方は分解綜合標本によつて理解を助ける ○標つけ後要所のみへ縫印をなさしめる	
裁	3. 布裁方 布の測り方 布の折方 模様配置 鉄の入れ方	實物標本 裁方分解標本		
單	4. 標つけ 5. 縫方研究	各種袖標本		
衣	6. 仕上げ 肩揚げの仕方			

5、六學年指導方針

- 1、理論的にも技術的にも相當能力は進む従つて各部面への伸展を計る。
- 2、自分の力も知り自分の衣服から他人のものへと力を延したい時である。裁方の工夫、縫方の調査等各方面への實踐力を養成する。
- 3、尙衣服方面に對しての經濟的考察をも深める。

初六 學習教材

毎週二時間

第一學期 豫定時數約三〇時

中裁長着單衣 二五

自由教材 五

第二學期 豫定時數約三〇時

小裁袷 三〇

第三學期 豫定時數約二〇時

作業服 一五

自由教材 五

6、六 學 年 教 材 配 當 表

第 一 學 期

教材	備 成 要 項	環 境 整 理	備	考
中 裁	1、各部の名稱及寸法 既習小裁との比較對照 2、裁方、積り方 分解標本にて裁方圖の構成	プリント 實物標本	○分解標本にて裁方の理解を與へ裁方の構成圖を記入 ○裁切寸法 出來上り寸法の理解 ○縮尺用紙にて裁方學習 ○元祿袖の丸味つけなどは割出をやかましくせず圖書の時の丸みを描く 心持ちで標つけをさせてもよい ○摘衿の箇所について服裝改善へと指導する、特に寢着を作る者には ○肩當のもし丈の長い場合には衿のつまみを表と共にせない ○標つけ後要所の縫印はいつも同様	
長 着	3、布裁方 4、標つけ 布の置き方 標つけの順序 摘衿及衿の標附の要点 標つけ標本の活用	裁方分解標本 標つけ理解標本 袖各種標本 肩當居當當の附け方 標本		
單 衣	5、縫方研究 筒袖及元祿袖の作り方 肩當、居當當の必要及附け方			
自由題材とす	6、仕上げ 揚の仕方と全体の形の變化		主として自己の力の應用	

第 二 學 期

教材	備 成 要 項	環 境 整 理	備	考
小 裁	1、各部名稱 單衣と對照 2、地質しらべ 袷として地質 模様、柄合せ 3、裁方積り方 分解標本による裁方圖の構成 並巾、各種裁方しらべ 4、標つけ 袖標つけ 身頃標つけ 衿標つけ 5、縫方研究 袖口布つけ 元祿袖、筒袖 ひら袖、其他 △身頃縫方 裏身、脇縫 △身頃縫方 脇縫 裾合せ 袖八つ口始末 袖つけ 衿つけ 衿下縫(くけてもよい) 裾縫ち 6、仕上げ 衿上げ 衿附 縫揚 墨み方	プリント 實物標本 單衣分解標本 縫方過程の標本	○小裁物の模様、柄合は特に動的(動物)の布多し 後身頃に注意 ○袖仕上げ後は一應批判訂正をなさしむ ○袷なるが故に標つけ縫方の綿密に爲すの指導が肝要 ○標つけの場合裏身頃を表身にはさみ裏表同時になす ○衿を四つ縫ひに仕立てると理解が早い 悪い部面の訂正も容易時間的に經濟である ○部分縫は必要な場所に於いて指導する事は能率上よし	

初六 教材配當表

教材	練成要項	環境整理	備	考
作	1、作業前掛の目的及地質しらべ 2、割出しによる型の取方 3、布裁 4、縫方研究	プリント 實物標本	○時局柄新品を用ひず古着の利用 ○布巾の狭い物に後肩に斜の持出布を用ふ ○前くりの始末 各自自分によく似合ふ形に作る ○商店の陳列品の觀察	
業	前くりの始末 肩合せ 裾ぐけ 袖つけ ポケットつけ	前ぐりの部分標本		
服	5、仕上げ 紐つけ			
自由教材				

7、高等科一、二學年指導方針

- 1、高等科兒の大部分は補缺入學のため各校よりの集りである、第一學期は特に自發的學習態度への養成に努力する。
- 2、自分の衣服の製作は勿論更に家庭に於ける各人の衣服の調製を研究せしめる
- 3、郷土の行事等に注意させ正しき衣服生活を理解させ更に家庭内にて處理する母姉の手傳をなさしめ衣服に關する常識を廣め經濟的生活を研究せしめて行く。
- 4、漸次技術に習熟せしめその要領を觀察させ時間的にも仕事の能率の上からも冗を省き經濟化せしめる。
- 5、正しい身粧の必要を知らせ外觀のみにとらはれる事なく人格修養に就いて十分の理解を必要とする。
- 6、尙二學年には特に實社會に間に合ふべき事項の指導に當る。
- 7、家事より衣服に關する事柄はこの裁縫にゆづられることになつた。當校にては増加時(週一時間)に於いてそれを指導する。
- 8、高二増加時は裁縫時に當てる、従つて高二裁縫取扱時毎週四時間とす。

主として現行家事教科書中の教材について學習せしめる。

高等科第一學年學習教材 毎週三時間

第一學期 豫定時數約四五時

大裁長着單衣 二二五

簡單服 二一〇

第二學期 豫定時數約四五時

高等科一、二學年指導方針

高等科一學年教材

大裁女物衿 三五
モンペ 一〇

第三學期 豫定時數約三〇時

大裁男物單衣 二四
補綴 八

増 課 時 學 習 教 材

每週一時間

第一學期 豫定時數約一五時

纖維と織物 四

洗濯 一一(解洗、のり張り、冬夏服)

第二學期 豫定時數約一五時

衣類の手入保存 二

洗濯のり張 一〇(單衣全洗、解洗(絹毛)のり張り)

しみ抜き 三

第三學期 豫定時數約一〇時

揮發油洗 二

編物 五

服裝 三

高等科二學年學習教材

每週四時間

第一學期 豫定時數約六〇時

大裁衿男物 二五

簡單服 二〇

女帶 一〇

座蒲團 五

第二學期 豫定時數約六〇時

大裁女衿羽織 二四

小供服 二一

小裁綿入 一五

第三學期 豫定時數約四〇時

大裁男衿羽織 二〇

袖無羽織 一〇

更生(廢品利用) 一〇

8、高等科教材配當表 (高一)

教材	大 裁 單 衣	簡 單 服	教材	大 裁 單 服	簡 單 服
鍊成要項	1、各部の名稱及寸法 2、裁方積り方 ○裁方積りによる裁方圖構成 ○各種の裁方しらべ ○布裁迄の注意 ○布裁の測り方 ○模様の配置 ○鉄の入れ方 3、標つけの順序 4、縫方研究 5、仕立の型紙の訂正 6、布裁の型紙の訂正 7、布裁の型紙の訂正 8、布裁の型紙の訂正	1、各部の名稱、地質しらべ 2、裁方積り方 3、裁方積り方の相互の關係 4、裁方積り方の相互の關係 5、裁方積り方の相互の關係	環境整理	プリント 大裁女物給 表及裏の布地標本 襟の部分縫 配色標本 単衣分解標本	環境整理 プリント 大裁女物給 表及裏の布地標本 襟の部分縫 配色標本 単衣分解標本
備	○裁方練習は縮尺用紙にて練習 ○すべて同じもの二枚づゝの構成である、裁方の單純化を計る關係上總 用布を二枚に折る、衽布裁斷部は輪なる事に注意 裁方簡易法 折積り法の確實 ○裁方の實力養成につとめる ○縫標は要所のみ ○仕立替の物は標つけ標本の觀察に於いて特に留意する ○衽標つけ後、衽つけ線を折つておく事もよい ○衽は狭衽の仕立が多い、衽先の箇所より下向を廣くするのもよい (バチ衽とも言ふ) ○疊み方 十分に練習をする實習後は家庭にて各兒手手傳しむ	○表布裁方は一學期と同じ ○表丈と胴裏丈裾廻丈との關係は線グラフにて表はすと理解され安い ○袖巾標は袖下縫を終へてから ○地質にも關聯するが衽の四つ縫は時間上にも仕事の上にも經濟である ○身頃の縫方も種々ある事を指導する ○表布裾廻等の價格の研究 ○袖丈長くて身丈の短かくなる場合の裁方各種研究 ○仕立直しの材料は標つけの場合に注意する	備	○裁方練習は縮尺用紙にて練習 ○すべて同じもの二枚づゝの構成である、裁方の單純化を計る關係上總 用布を二枚に折る、衽布裁斷部は輪なる事に注意 裁方簡易法 折積り法の確實 ○裁方の實力養成につとめる ○縫標は要所のみ ○仕立替の物は標つけ標本の觀察に於いて特に留意する ○衽標つけ後、衽つけ線を折つておく事もよい ○衽は狭衽の仕立が多い、衽先の箇所より下向を廣くするのもよい (バチ衽とも言ふ) ○疊み方 十分に練習をする實習後は家庭にて各兒手手傳しむ	○表布裁方は一學期と同じ ○表丈と胴裏丈裾廻丈との關係は線グラフにて表はすと理解され安い ○袖巾標は袖下縫を終へてから ○地質にも關聯するが衽の四つ縫は時間上にも仕事の上にも經濟である ○身頃の縫方も種々ある事を指導する ○表布裾廻等の價格の研究 ○袖丈長くて身丈の短かくなる場合の裁方各種研究 ○仕立直しの材料は標つけの場合に注意する

第二學期

教材	大 裁 女 物 給	モ ン ベ	教材	大 裁 女 物 給	モ ン ベ
鍊成要項	1、各部の名稱、地質しらべ 2、裁方積り方 3、裁方積り方の相互の關係 4、裁方積り方の相互の關係 5、裁方積り方の相互の關係	1、布裁方は餘り下にすぎらないやうに 2、縫方研究は作りぬのよい 3、縫方研究は作りぬのよい 4、縫方研究は作りぬのよい 5、縫方研究は作りぬのよい	環境整理	プリント 大裁女物給 表及裏の布地標本 襟の部分縫 配色標本 単衣分解標本	環境整理 プリント 大裁女物給 表及裏の布地標本 襟の部分縫 配色標本 単衣分解標本
備	○表布裁方は一學期と同じ ○表丈と胴裏丈裾廻丈との關係は線グラフにて表はすと理解され安い ○袖巾標は袖下縫を終へてから ○地質にも關聯するが衽の四つ縫は時間上にも仕事の上にも經濟である ○身頃の縫方も種々ある事を指導する ○表布裾廻等の價格の研究 ○袖丈長くて身丈の短かくなる場合の裁方各種研究 ○仕立直しの材料は標つけの場合に注意する	○モンベは時局的に必要なもの、様に解せられてゐるが、冬季など台所 仕事着に適する、農村など特に野良着としてすでに常着されてゐる ○各種あるが下げきの方を指導する ○當校母姉會考案のものもある(上下續きエプロン型)	備	○表布裁方は一學期と同じ ○表丈と胴裏丈裾廻丈との關係は線グラフにて表はすと理解され安い ○袖巾標は袖下縫を終へてから ○地質にも關聯するが衽の四つ縫は時間上にも仕事の上にも經濟である ○身頃の縫方も種々ある事を指導する ○表布裾廻等の價格の研究 ○袖丈長くて身丈の短かくなる場合の裁方各種研究 ○仕立直しの材料は標つけの場合に注意する	○モンベは時局的に必要なもの、様に解せられてゐるが、冬季など台所 仕事着に適する、農村など特に野良着としてすでに常着されてゐる ○各種あるが下げきの方を指導する ○當校母姉會考案のものもある(上下續きエプロン型)

教材	大 裁 男 單 衣		備
練 成 要 項	1、名稱及寸法 2、裁方、積り方 3、標つけ 4、縫方研究 5、仕上げ		環境整理
備	1、名稱及寸法 2、裁方、積り方 3、標つけ 4、縫方研究 5、仕上げ	大裁女物單衣 大裁男物單衣 男物袖の部分縫標本 肩當布つけ各種	〇時期に少し遠ざかつては居るが夏季終りに用意する様に 〇出来れば解洗、のり張り仕立と連關した指導は適當と思ふ 〇裁方は女物と同様十分ノ一縮尺用紙にて充分練習をなす 〇當地では鈎衿は餘り用ひられない 〇高等科になると随分補綴をせずに持參のものがある適宜指導す 〇衿裏を用ひて仕立てるものは少ないから標本のみ觀察にとどめる 〇繕ひは小破の時になすことを指導 〇部分練習布は綴ちて保管させておく 〇實物を持參させ更に練習せしめると同時にその物に對して感謝の念を もたしめる

高一増課時系統案 第一學期

教材	織 維 と 織 物		時間
練 成 要 項	1、織物の原料及纖維の種類 2、纖維の性質 3、織物の構造及種類 4、織物纖維の鑑別方法		備 考
濯 洗	一、二、		〇衣類の洗濯、保存、手入等の處理には衣類の原料及その性質の如何を知つての取扱 が肝要である、その處理法の如何によつて衣類の壽命を延ばせるのである 〇物理的性質 木綿、麻、絹、羊毛、ス・フ 〇織方及種類 手織、斜紋織、縞子織特別組織縞（ピロード） 〇學校のカートン及座蒲團を洗濯せしめる 〇時局柄白布の漂白法は行はない 〇ス・フ洗濯は夏服上衣を實習せしめ糸口とす 〇代表的な織物の洗濯實習後は家庭の物を多く持參せしめ實習せしめる（毛、絹をのぞく） 〇ス・フ 人絹はシンシ張に注意を要す 〇シンシの前後の處理に注意

教材	時間	練習要項	備考
衣類の手入れの類	二	1、衣類の保存、手入の必要 2、衣類の手入方法 3、衣類の手入時期 4、保存法の仕方及容器	○衣類の長壽法は一つに手入法、保存法に依る ○時局柄既にあるものの手入保存を必要とし更に衣類の經濟的生活を力説する ○特に死蔵衣服の更生をさとらしむ ○各家庭の實際處理法を手傳はしめる ○家庭よりの持参品はなるべく中・小裁程度のものに ○解き洗に比して相當に困難点が多い
洗濯の準備	一〇	1、丸洗の方法 洗濯前の準備 2、丸洗ひの仕上げ方 3、絹・毛織物洗濯法 洗濯済及その使用法 4、解洗及仕上げ法 解き方はぬい方のりについて	○一學期洗濯實習の復習ともなる、毛・絹の洗濯及仕上げ ○破れの補綴はぬい前に ○シンシ要は絹織物のみ毛織はメリンスの外せない、但し水張はする
しみ抜き	三	1、しみ抜きの必要 2、しみ抜きの心得 3、しみの應急手當 4、しみ抜きの方法	○學校實習 インク、墨汁、血、鐵さび、醬油、汗 ○新聞紙等の家庭用などの必要事項(一切抜き)に注意を向かしめる ○しみは一方法にて直ちに抜く場合もある故最も易き方法より順次種々の手段を施し氣永く抜くことの大切さを解らせる

教材	時間	練習要項	備考
揮發油の洗濯	二	1、揮發油洗濯の必要 2、簡單クリーニングの方法 3、刷毛掛の必要	○時局柄揮發油を最少に用ひて垢をとり衣服の整美を保たす方法をとる、即ち科學的の理法に立脚して アンモニヤ、簡單なる手入法に揮發油 ○各兒冬服の手入の實習 ○主として洋服日々の手入について
編物	二	1、編物の洗ひ方 2、編物の綴ひ方 3、その保存法	○洗ひ方の實習は毛メリヤス、ス・フ等の洗ひ方 ○セーター其他編物の綴ひ方を實習
服装	三	1、衣服の必要 2、服装の種類及長短 3、衣服生活の經濟化 4、品位ある服装生活 將來日本服の發展及改善	○衣服と衛生Ⅱ衣服と活動 ○流行 流行の本義は時代に伴つて發達する自己の精神の表現、然るに現今の流行中には商業上の策略から目新らしいものを賣出して人の好奇心をそよる ○現在時局を切りぬける心構へ 1、衣服の数を減ずる(單純化) 2、手入保存に依つて衣服を長壽させる 3、死蔵衣服の更生

高二裁縫教材配當表
第一學期

教材	鍊成要項	環境整理	備	考
大裁男單衣	1. 實物觀察 大裁單衣と對照 各部名稱 地質、裏布	大裁男物單衣 裕 プリント	○大裁男單衣の既習事項を對照する ○高等二學年であるから相當技術的にも留意せねばならん ○縫方に於いて 表の揚の仕方 表の揚の仕方に注意 袖仕上後は一應提出せしめ見る必要あり ○裏衿のつけない者には標本で會得せしめる 夏季に於いて社會一般に多く着用せられてゐる浴衣などにて作り家族の誰れのもも作れるやうに	
女帶	1. 各種の地質 表側及芯地 寸法に留意 2. 地直し 3. 假縫、標つけ 4. 縫方研究、標つけ 四隅の直角 ボケットの附方 5. 帶と整容 着物と帶との關係 返し方	各種の帶 芯を入れる所を示したももの	○名古屋帶 腹合帶何れでもよい ○表 芯 地直しを特に念入りに 表のばし 芯 適當に縮めて ○特にこゝで着用法をも指導 胸高にせないことに注意	
座蒲團	1. 解き方 2. 洗滌 3. 縫のりつけ、地のばし 4. 縫方の入れ方 5. 仕上げ	實物標本	○ふとん綿の始末について ○學校の備品用の仕立替へをさす事もよい ○解洗ひ、のり張り仕立迄の過程を實習する ○綿の手入及補給	

第二學期

教材	鍊成要項	環境整理	備	考
大裁女裁	1. 實物觀察 各部名稱 地質、裏布 長着との比較 表布、胴裏の關係 2. 裁方、積り方 着物の裁 襦の落し方 3. 標つけ 長着との寸法の關係 肩山を正しく(緯に注意) 前下り (この所で襦をはじめて裁つとよい) 襦の標つけ 4. 縫方研究 胴接(折のつけ方) 後襟附の要領 前下り縫及前襦つけ 袖入つ口 袖は最初に折る 衿つけの要領 衿先の縫方 5. 仕着附、疊み方	實物標本 衿の折方標本 衿先縫の標本	○羽織丈のみでなく一般着物の丈も肩山から身丈をはかる様に改めたい ○身長により着丈の割出袖をしらしめる ○新品を裁つ時必ず襦落しは表裏同時に(標つけの手順迄進めて四枚一時に裁つ) ○平常着として襦無もよい ○長着、羽織何れにも適用する裁方に ○衿はなるべく初めに折る ○長着との色の調和 ○必要な部分は縫印 ○技術的に相當留意する	

子 供 服	小 裁 入
1、型紙の取方 標準寸法にての採寸 2、布裁方 前みかへしの取方 後當の取方 3、縫方研究 大体縫つけをしないから假縫をすませてぬい方に入る ポケットつけ	1、實物觀察 單衣及袴との關係 地質の研究 2、裁方 裏布 表布 3、標つけ 4、縫方研究 縫縮入(どちらでもよい) 新縮入(どちらでもよい) 5、縮の入れ方 含縮の要領 各種衣類と縮の分量 6、仕上げ 肩揚の仕方
子供服各種 ズボン裁方圖	實物標本 過程を示した標本 縮の種類
○子供(男子)のズボンの裁方及縫方を主とす女子の分は簡單服と同じ 男子子供服上衣も女物と同要領である ○年齢に應じ腹廻りはゴム通しでもよい	○縮の取扱ひ方 縮の切り方 縮の廣げ方 縮の伸し方 縮のつき方 今の縮はねばりがないから眞綿を敷いてもよい

大 裁 男 袴 羽 織	袖 無 羽 織
1、實物觀察 2、積り方、裁方 女物參照 3、標附 袖及袴 女物と對照比較 4、縫方研究 袖つけの四つ留 其他は女物參照	1、各部の名稱及幼兒袖無着用について 2、積り方、裁方 3、標つけ 袖くり寸法裏でつめる 4、縫方研究 標明接 脇明縫(袖くり)及襟上縫 含み縮 縮入れ方 假縫の仕方 肩つけ・くけ 5、仕上げ 肩揚 山の定め方 つまむ方法
實物標本 プリント	實物各種 ふくみ縮の仕方 過程標本
○地質は女物と對照 ○其他女物と大同小異 ○裁方女物と同じく新品のものは身頃の肩山の表裏四枚合せて縫合せ身丈を定め折返して四枚一時に襦布をとる(時間經濟 丸味双方合ふ)	○小裁縮入の實習後この取材を實習してもよい ○裁方 縮取方男物(大裁)參照 但しちゃん／＼の場合前裁ち落さぬ方よし ○大裁 男女羽織既習後故にたやすく仕上げられる 但し相當縮を多く入れる關係上袖くりの寸法に注意(裏) ○衿の折方 表衿に芯布を縫つけ一糎又は一・五糎に折る 衿巾の二倍より三糎控へて折る 衿つけ折山より○・三糎縫代淺くしてつける

(生 更) 服 子 供		
1、解方及び布の整理 解方 フラシかけ 洗濯 補綴(ポケット穴の始末) 染替 アイロンかけ 2、改造法各種 裏返し 布の切廻し方の工夫 切替線の利用 配色 3、形はそのままで汚損、破れ等の改造 アツブリケ フランス刺繍 裝飾 衿形の變化	子供服(男女)各種 エプロン	○主として大人服を子供服に改める者が多いと思ふ ○男女何れを實習するもよし ○卒業を控へてゐる児童なるが故に他方面に實踐出來得られるやうに相互に其の過程に於いて觀察させ補ひをなす ○商店の既成品觀察

9、藝能科裁縫指導案例

(1)

(一)、學年 初等科第六學年

(二)、教材 中裁單長着

(三)、要旨 自己の着用經驗をもとに和服として古來より傳るその特質を研究すると同時に左の事項を學習せしめる

1、各部分の名稱

2、襦袢 小裁單衣の既習事項と比較對照

3、裁方 縫方

4、地質 色、柄等について

(四)、教材觀

1、襦袢、小裁單衣等の調製に伴ひ縫方、裁方の基礎力も漸次養成されてゐる、中裁長着單衣の實習により一段と衣服構成に關する力を養ひ得られる。

2、尙中裁單衣は衣服改良への取扱ひとして考察部面のある發展的指導への教材である。

(五)、準備 指導者 標本各種 プリント等

兒童 教材 裁縫用具箱 プリント等

(六)、計畫

1、豫定時數 二五時間

各部分名稱及疊方 1時

裁方の研究 2時

縫方の研究 1時

袖標つけ縫方 3時

藝能科指導案例

藝術科指導案例

身頃様つけ	1時
肩當つけ	2時
脇縫、衽縫	3時
衿下、裾ぐけ	2時
衿つけ、衿ぐけ	5時
袖つけ、八つ口	3時
揚の仕方	2時

2、學習態度

- イ、女子の特質の向上及躰の修練に意を用ひる
- ロ、自發的學習態度の養成に努力する
- ハ、個性を善導し、裁縫能力の發揮に勉める。
- ニ、創作態度を養成する

裁縫部面には創作の場面が少ないとも言へるが兒童にとつては初學習である、模倣と創作とは對立でなく創作に於ける過程の一作用として取扱ふ。

3、實習

プリント
標本
指導者
本之等の環境の整理につとめること

本日の指導案

日時 年月日 曜日 第時限

學年 六學年

場所 裁縫室

教材 中裁單衣の袖つけ

目的

完成に近づくよるこびをもつて袖つけの實習をなさしめ、待針の必要所、要所のとめ方及び縫ふ力を一層に高めたい

準備 指導者 袖つけ理解の標本 兒童 材料 用具 プリント

計畫(指導過程)

- 1、兒童の進度調査
- 2、袖附の考察
待針の打方
縫方の方法
- 3、机間巡視
- 4、整理

備考

- 1、技能科なるこの學習は同時に出發しても兒童の早、遅、布地等の關係で同一コースの進度で一齊指導の作業面は少ない、従つて製作過程を尊重し環境整理(標本活用)に意を用ひる。
- 2、但し本時の取扱ひに於いては衿つけ衿ぐけ等の過程の兒童もあるが袖つけの實習は一齊指導の行ひ得る部面である故に同時に同所を研究せしめ實習せしめる。
- 3、兒童相互間に仕事の比較、意見の交換、標本觀察等の爲め少々動的の所もあるが目的に到達する過程と致しては止むを得ぬ兒童の學習生活である。
- 4、進針練習に對する學年の記録等記載

藝術科指導案例

10、藝能科裁縫指導案(復式) (2)

- 一、日時 昭和 年 月 日 第 時限
- 二、學年 高一女(名)
- 三、教室 裁縫室
- 四、教材 大裁單衣長着(女物)
- 五、要旨

大裁單衣の實習に當り左の事項を學習し併せて裁縫の力を高め技術的にも漸次意を用ひる

- 各部名稱
- 各部寸法
- 裁方、積り方、縫方
- 衣服に關する常識

六、教材觀

- 1、各部の名稱、寸法は既習事項と對照し大人を中心としての取扱ひをなす、從つて体格による寸法の相違を知らしめる。
- 2、一段と衣服の常識を深め新興織物の仕立方、取扱方には一層注意し更に時局を認識せしめる。
- 3、裁方に於いては充分に理解を必要とする(衣服構成の基本)關係上1-10縮尺にて裁方、積り方の練習をなし裁方の徹底と單純化を計る。

大裁男物及女物給等の既習事項と對照し男女大人物仕立方の相違點を學び給仕立の理解を深め技術的にも裁縫力の上にも一段と向上せしめ併せて仕事を迅速に爲すの要と養ふ以下全上

- 1、給仕立には單衣縫に仕立てる方法、衿つけを四枚縫に爲すの方法と二通りある。後者の方法は縫方の簡單化、時間の經濟この二面から考察すれば能率的である。しかし地質による仕立方の相違を知らしめる關係上兒童の材料によりその仕立方の違ひを實際に實習せしめる。
- 2、全 上
- 3、全 上

七、計畫

1、豫定總時數		1、全 上	
各部名稱及寸法調	一時間	全 上	一時間
裁方、積り方調べ	二時間	全 上	二時間
縫方調べ	一時間	袖標つけ、縫方	四時間
袖標つけ縫方	三時間	身頃標つけ	二時間
身頃標つけ	一時間	衿標つけ	一時間
衿 同	一時間	身頃縫方	三時間
身頃縫方	二時間	脇の仕方	三時間
肩當、居數當つけ	三時間	脇縫方	二時間
脇縫及縫込綴	二時間	裾合せ	二時間
衿つけ縫込綴	二時間	中 綴	一時間
衿下つけ、裾ぐけ	三時間	袖つけ	二時間
衿つけ、く衿け	三時間	衿つけ、衿下縫	三時間
袖つけ、八つ口ぐけ	三時間	衿つけ、衿ぐけ	三時間
仕上げ	一時間	裾綴、仕上げ	一時間

2、學習態度

- (1) △姿勢、態度に留意し用具の整理、整頓、使用等の訓練をなし躰を重んじよき習慣へと導く
- △個性を善導し各兒の裁縫力の向上を計り併せて女子の特質への發揮につとめる
- △自發的學習態度の徹底に努力する

- (2) 裁方、縫方何れに於いても古來より傳はるるその特色を受け継ぎ感恩の念を深め得ると共に模倣のみに満足せず更に日本衣服としての改良及創作の部面、尙時局に照して服装生活の簡易化の指導も忘れてはならん
- 3、生地及兒童の早 遅等に依つて同一進度の學習は大體に於いて望み難い、復式指導の取扱ひでは尙複雑である。故に單衣と袷の違ひはあつても相互對照しつゝ、理解の出来る場面はなるべく一、二學年同時に取扱ひその要領を指導し復式取扱ひの單純化を計る。

本日の指導案

教材 衿つけ

目的

大裁單衣長着(女)の衿つけの實習に當り既習事項を反復すると同時にその理解を深め更に徹底を計る。

準備

指導者 衿標つけ理解標本其他

兒童 材料 用具 ノート

計畫(指導過程)

- 1、運針
- 2、衿つけ標、衿、身頃
- 3、待針うち方
- 4、縫方實習
- 5、整理

袷部分縫

大裁男物袷の衿下しまつの實習前の取扱ひに當り袷先部分縫の練習をなし技術の修練を計る。

部分縫用布

袷先部分の理解用具

全 上

全 上

任袷先の部分標つけ

全 上

袷先引糸のつけ方に注意

全 上

413
325

昭和十六年十月十日印刷
昭和十六年十月十五日發行

【非賣品】

編輯者 和歌山縣師範學校附屬國民學校
和歌山市真砂町一丁目一番地

發行者 和歌山縣教育會
代表者 坂本 高吉
和歌山市四番丁一番地

印刷者 水本 義彦
和歌山市四番丁一番地

印刷所 和歌山日日新聞社印刷部
和歌山市真砂町一丁目一番地

發行所 和歌山縣教育會

